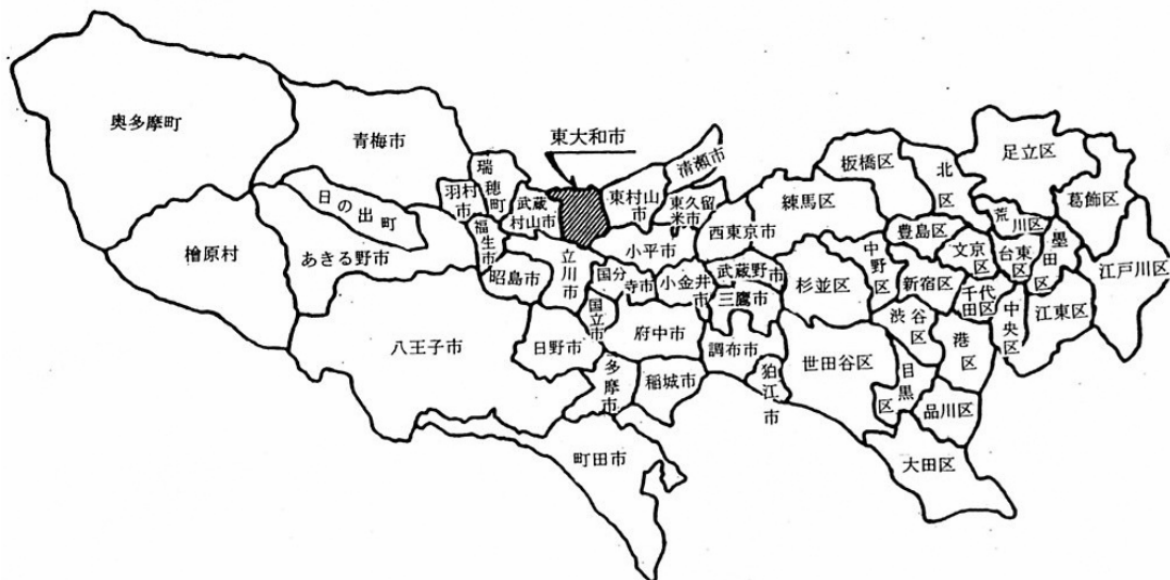


Ⅰ. 計画の背景

1 東大和市の概況

1) 位置

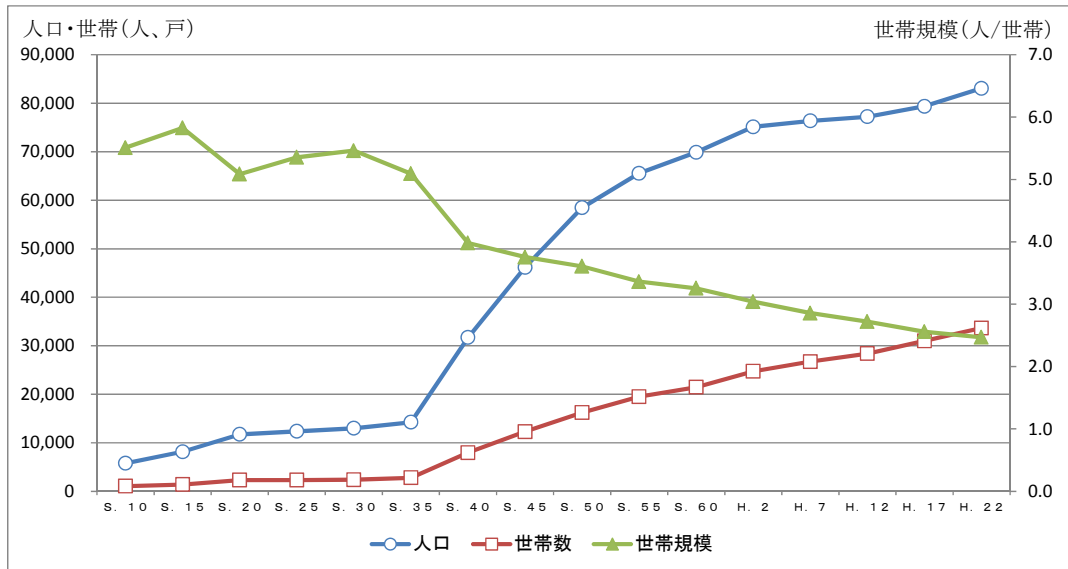
- 東京都心から約 35 k m の距離にあり、北多摩の北部に位置しています。
- 北は多摩湖を介して所沢市と接する県境となっており、東は東村山市、南は立川市、小平市、西は武蔵村山市に接しています。
- 鉄道は、市域東側を西武鉄道多摩湖線、南側を西武鉄道拝島線が通り、西側に多摩都市モノレールが多摩地域の南北交通を担っています。



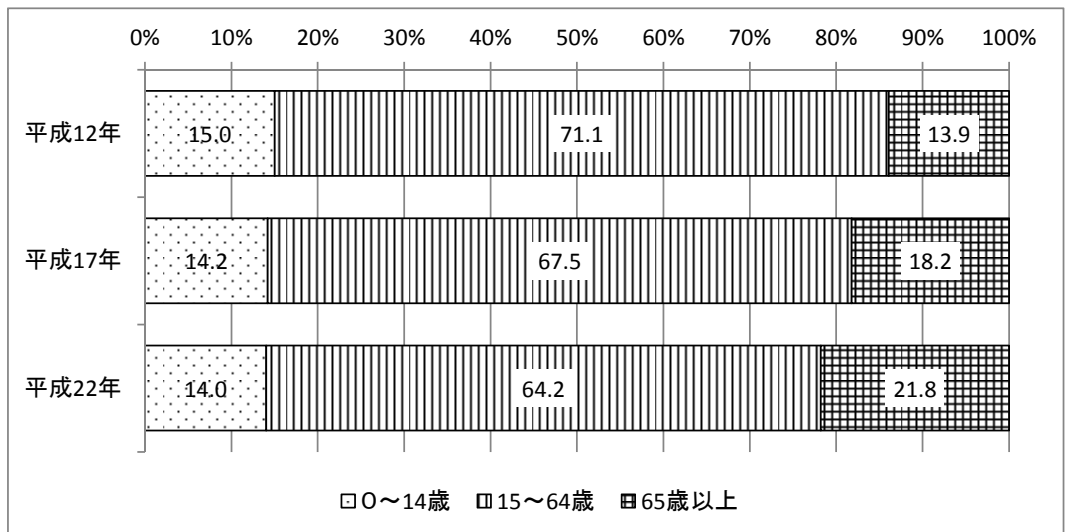
2) 人口

- 本市の人口は、昭和 35 年頃からの都営住宅等の大規模団地の建設によって急激に増加しましたが、平成 2 年頃には緩やかな増加傾向に転じ、平成 22 年（国勢調査）で 83,068 人となっています。
- 世帯数も人口増と併せて伸びており、世帯数増加の傾向は人口の伸びを上回り、それに伴い 1 世帯当たりの人口規模は減少し、平成 22 年（国勢調査）でみると、世帯数 33,648 世帯、1 世帯当たり人口規模 2.5 人となっています。（東京都平均：2.1 人/世帯）
- 年齢 3 区分でみると高齢化は着実に進行しており、平成 22 年の高齢者人口比率は 21.8% となっています。（東京都平均：20.1%）

●人口・世帯・世帯規模の推移



●年齢 3 区分別人口構成比の推移

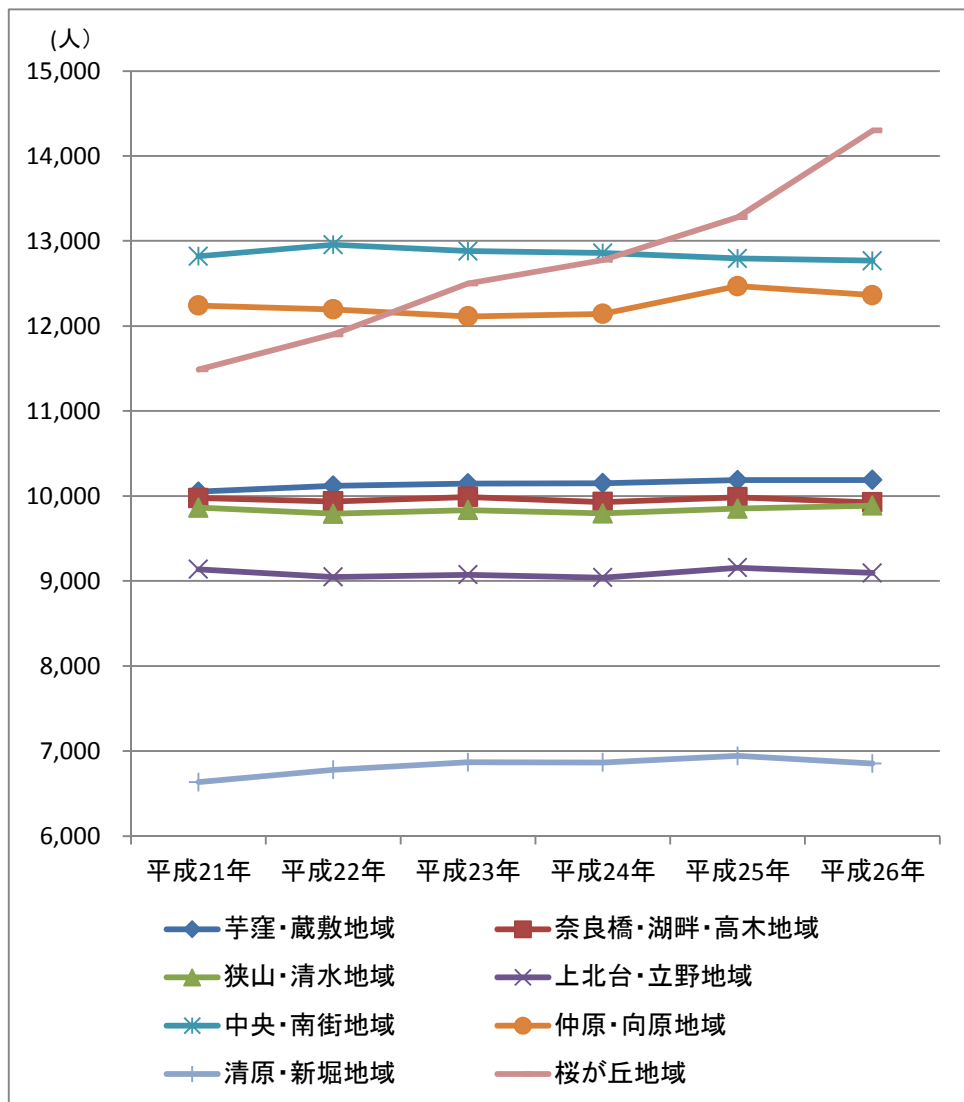


資料：国勢調査

○ 地域別にみると、概ね横ばいの地域が大半ですが、「桜が丘地域」の人口の伸びの高いことが特徴的となっています。



●最近の地域別人口の動向



資料：
住民基本台帳
(各年4月1日)

●最近の地域別人口・世帯数・世帯規模の動向

単位(人、世帯、人/世帯)

		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
芋窪・葦敷地域	人口	10,051	10,122	10,148	10,152	10,187	10,189
	世帯	4,346	4,410	4,466	4,487	4,526	4,579
	世帯規模	2.31	2.30	2.27	2.26	2.25	2.23
奈良橋・湖畔・高木地域	人口	9,976	9,937	9,990	9,930	9,985	9,926
	世帯	3,921	3,921	3,973	3,999	4,069	4,079
	世帯規模	2.54	2.53	2.51	2.48	2.45	2.43
狭山・清水地域	人口	9,863	9,791	9,835	9,795	9,851	9,888
	世帯	4,011	4,032	4,093	4,106	4,189	4,252
	世帯規模	2.46	2.43	2.40	2.39	2.35	2.33
上北台・立野地域	人口	9,139	9,048	9,074	9,040	9,157	9,094
	世帯	3,920	3,956	4,008	4,044	4,129	3,268
	世帯規模	2.33	2.29	2.26	2.24	2.22	2.78
中央・南街地域	人口	12,820	12,955	12,880	12,858	12,794	12,768
	世帯	5,620	5,705	5,711	5,774	5,781	5,493
	世帯規模	2.28	2.27	2.26	2.23	2.21	2.32
仲原・向原地域	人口	12,241	12,196	12,114	12,144	12,469	12,364
	世帯	5,198	5,267	5,271	5,334	5,494	5,849
	世帯規模	2.35	2.32	2.30	2.28	2.27	2.11
清原・新堀地域	人口	6,636	6,780	6,869	6,867	6,944	6,853
	世帯	3,058	3,131	3,199	3,228	3,289	4,135
	世帯規模	2.17	2.17	2.15	2.13	2.11	1.66
桜が丘地域	人口	11,488	11,901	12,499	12,777	13,280	14,298
	世帯	4,462	4,628	4,894	5,011	5,218	5,619
	世帯規模	2.57	2.57	2.55	2.55	2.55	2.54
総数(多摩湖地域を含む)	人口	82,218	82,734	83,413	83,567	84,671	85,382
	世帯	34,537	35,051	35,616	35,984	36,696	37,275
	世帯規模	2.38	2.36	2.34	2.32	2.31	2.29

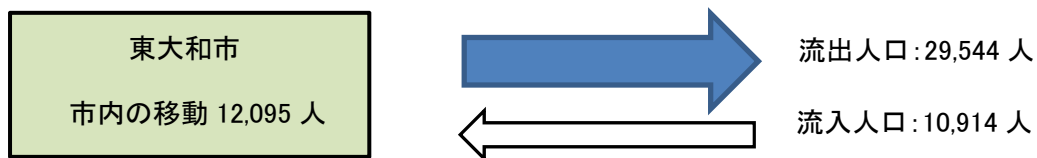
資料:住民基本台帳(各年4月1日)

- 昼夜間人口でみると平成 22 年(国勢調査)の昼間人口指数は 79.4 であり、“職”より“住”の性格が強くなっています。
- 通勤・通学の流出入では、流出人口が約 3 万人に対し、流入人口は約 1 万人と、3 : 1 で流出が多くなっています。
- 流出先は「東京都特別区」が 7,543 人と流出の約 25%を示しています。近隣では立川市に 3,304 人、小平市に 2,639 人と 2,000 人以上の流出がみられます。

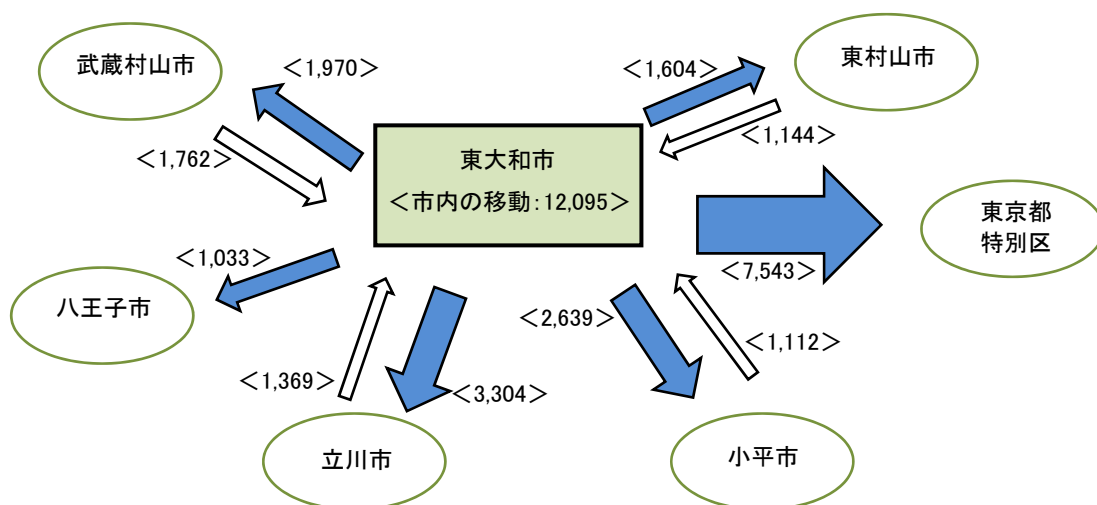
● 昼夜間人口の動向(国勢調査)

	夜間人口	昼間人口	昼間人口指数
平成2年	74,812	55,576	74.3
平成7年	76,343	58,926	77.2
平成12年	77,193	60,927	78.9
平成17年	79,228	64,274	81.1
平成22年	83,068	65,959	79.4

● 通勤・通学からみた流入・流出状況(平成 22 年、国勢調査)



● 通勤・通学の主な方面別の状況(1,000 人以上を表示)(平成 22 年、国勢調査)



3) 市街地の整備状況

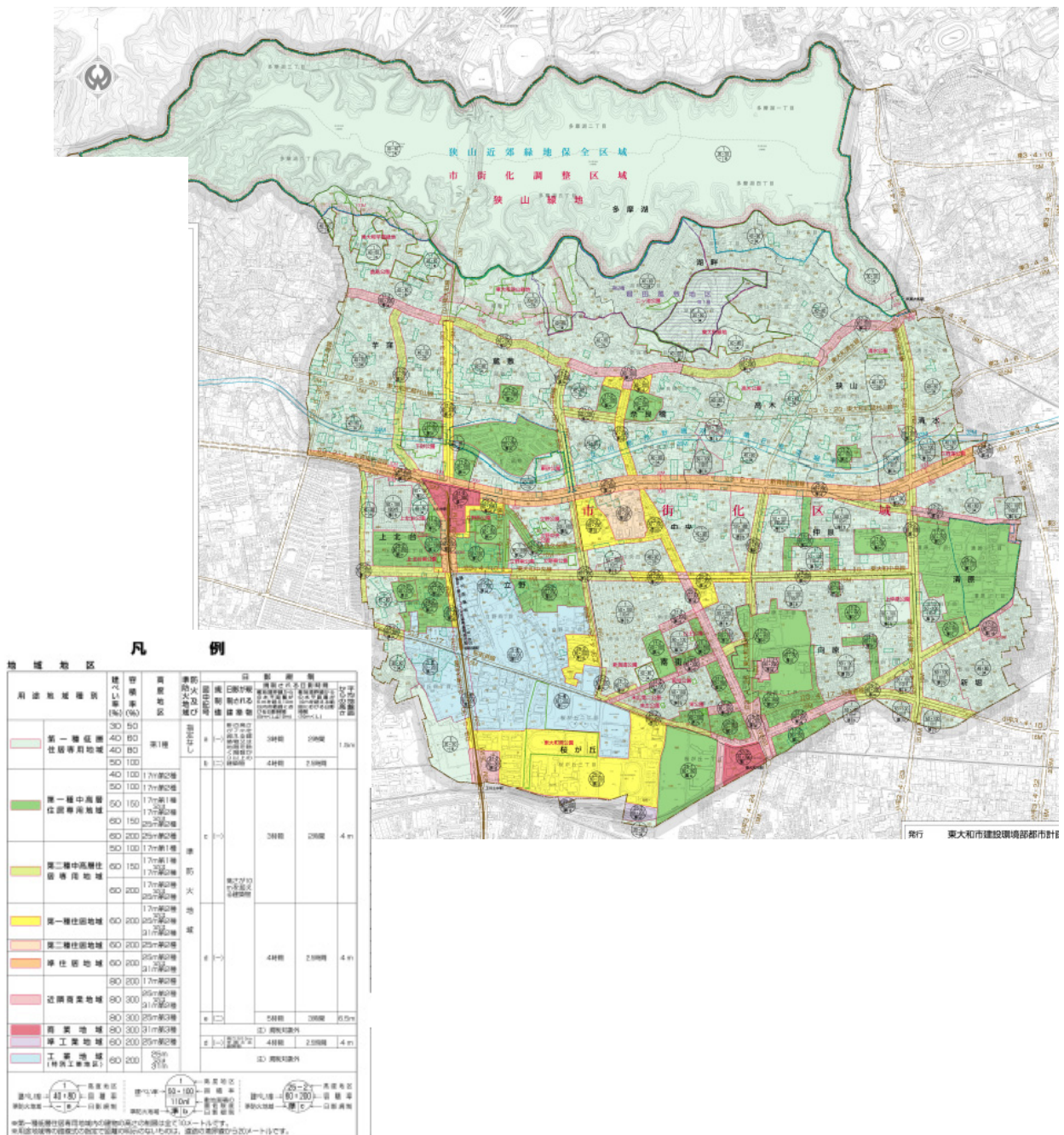
<用途地域の設定状況>

- 用途の大半は住居系地域であり、商業地域が東大和市駅と上北台駅周辺、工業地域が市の南西部の地域に指定されています。
- 工業地域は、特別用途地区（特別工業地区）が指定されており、公害防止の観点から工場の種類、業種を条例で規制しています。

<都市計画道路>

- 都市計画道路（幹線道路）は11路線あり、整備率は概ね70%となっています。

● 東大和市都市計画図

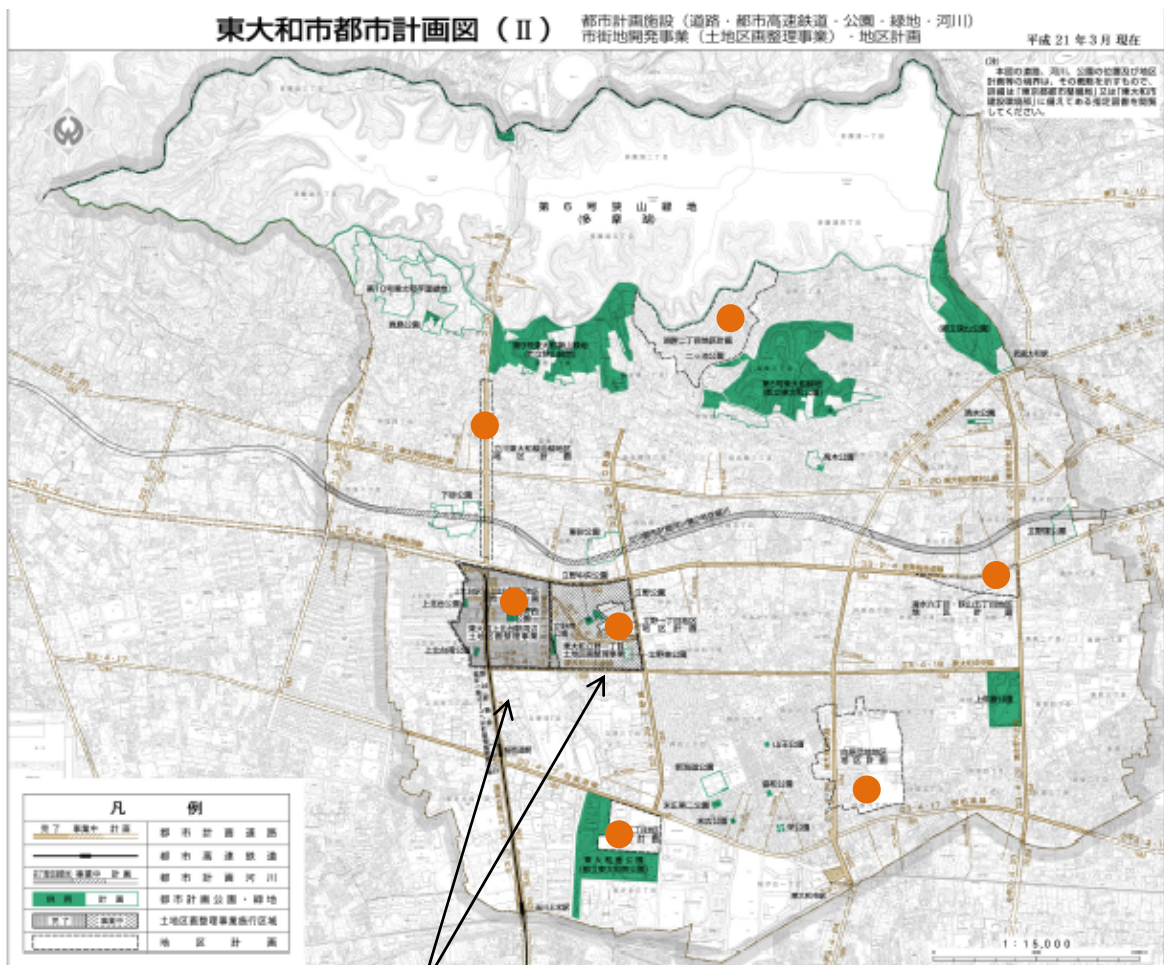


＜土地区画整理事業や地区計画の状況＞

- 土地区画整理事業は、上北台駅周辺土地区画整理事業が完了し、その東側の立野一丁目土地区画整理事業を施行中であります。また、昭和 48 年から昭和 56 年で東部土地区画整理事業を施行しました。
- 地区計画は 7 地区決定されています。

＜公園の状況＞

- 都市計画公園・緑地の整備状況は以下のとおりです。
 - 街区公園 : 16 か所 (一部未整備 4 か所)
 - 近隣公園 : 4 か所 (一部未整備 1 か所、未整備 3 か所)
 - 総合公園 : 1 か所
 - 運動公園 : 1 か所
 - 緑地 : 4 か所 (一部未整備 3 か所、未整備 1 か所)
- 多摩湖周辺は狭山近郊緑地保全区域に指定されています。



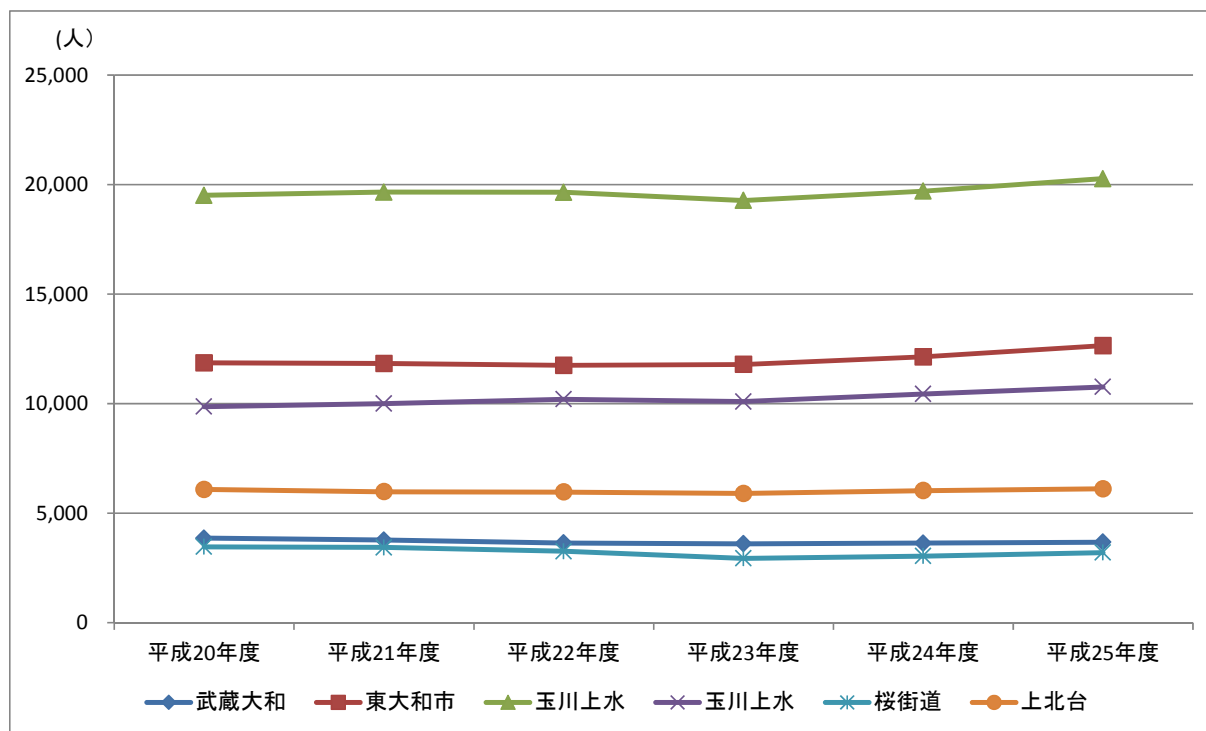
土地区画整理事業の事業エリア

● 地区計画決定地区

4) 交通

- 市の南側を東西に西武鉄道拝島線、東村山市と隣接する東側を西武鉄道多摩湖線、西側を南北に多摩都市モノレールが通り、主に6つの駅が利用されています。
- 駅別の利用状況（1日平均乗車数）をみると、近年概ね横ばいであり、最も利用が多いのは西武鉄道の玉川上水駅の約20,000人となっています。
- 路線バスは、市内を縦横に西武バス、市域の西部を立川バス、青梅街道を都営バスが運行しており、市内各地域と鉄道駅等を結ぶ市民の重要な交通手段となっています。
- 公共交通空白地域の解消を主な目的として、既存バス路線網を補完するコミュニティバス「ちょこバス」を運行しています。

● 鉄道の各駅の乗車数(1日平均)



(単位：人)

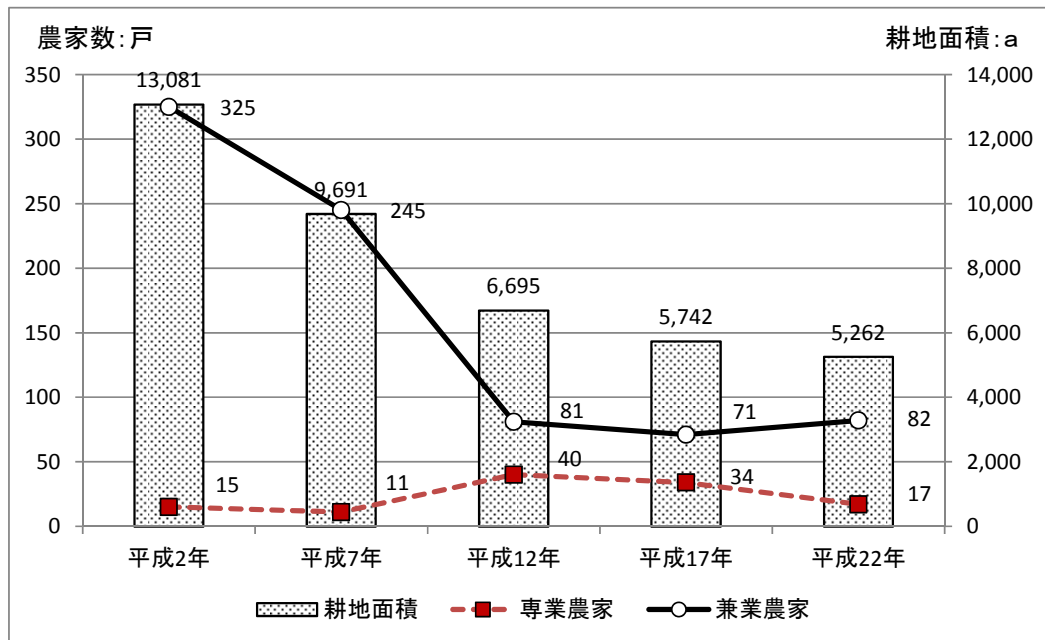
		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
西武鉄道	武蔵大和	3,860	3,769	3,639	3,603	3,636	3,680
	東大和市	11,861	11,832	11,748	11,793	12,133	12,646
	玉川上水	19,509	19,663	19,650	19,279	19,705	20,273
多摩都市モノレール	玉川上水	9,867	10,006	10,205	10,097	10,442	10,766
	桜街道	3,468	3,435	3,256	2,937	3,040	3,200
	上北台	6,087	5,977	5,963	5,896	6,030	6,108

資料：統計東やまと

5) 産業

<農業>

- 農家数・耕地面積ともこの20年の間に大きく減少し、平成22年では農家数99戸、耕地面積約53haとなっています。
- 地域別にみると農家数が最も多いのは芋窪地域です。
- 農業就業者は50歳以上が7割以上を占め、農家の高齢化と後継者問題が生じています。
- 主な作付品目は、自家用の野菜と果樹となっています。



● 地域別農家数の推移

(単位: 戸)

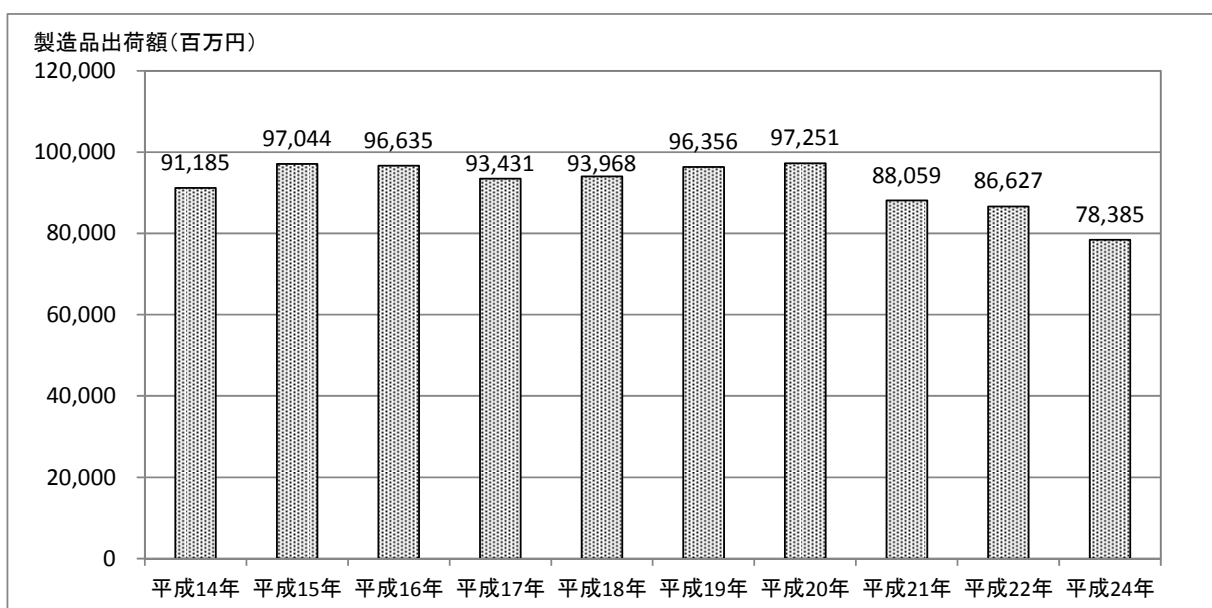
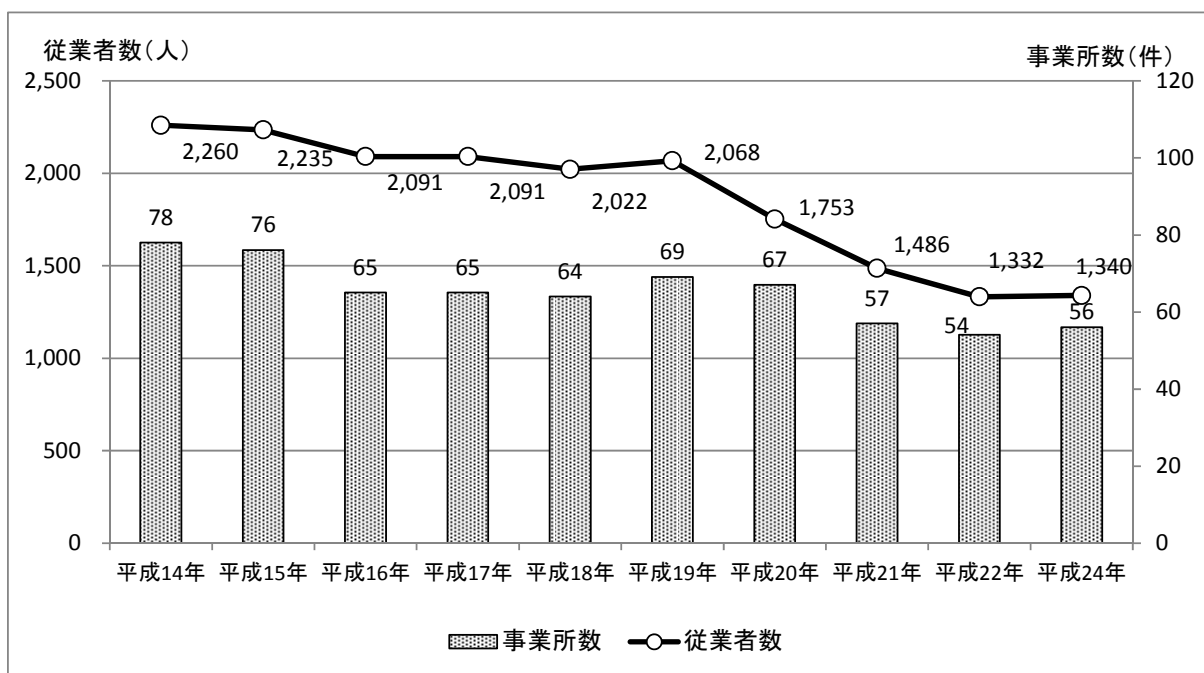
年次	総数	芋窪	蔵敷	奈良橋	高木	狭山	清水
平成2年	340	106	35	63	38	55	43
平成7年	256	92	29	46	27	34	28
平成12年	121	44	19	21	17	15	5
平成17年	105	42	16	16	14	13	4
平成22年	99	39	17	13	12	13	5

(注: 地域名は旧大字名)

資料: 統計東やまと

<工業>

- 事業所数も従業者数も近年減少しており、平成24年で事業所56件、従業者1,340人となっています。
- 従業員が30人以上の工場は全体の15%と、小規模な工場が多くなっています。
- 製造品出荷額はやや減少気味で、主な業種は食品製造業となっています。
- 工場の郊外移転や廃業が増え、跡地の住居系土地利用への転換が進むなど、工業の空洞化が現れています。
- 工業地域の指定は、立野・桜が丘地域となっています。

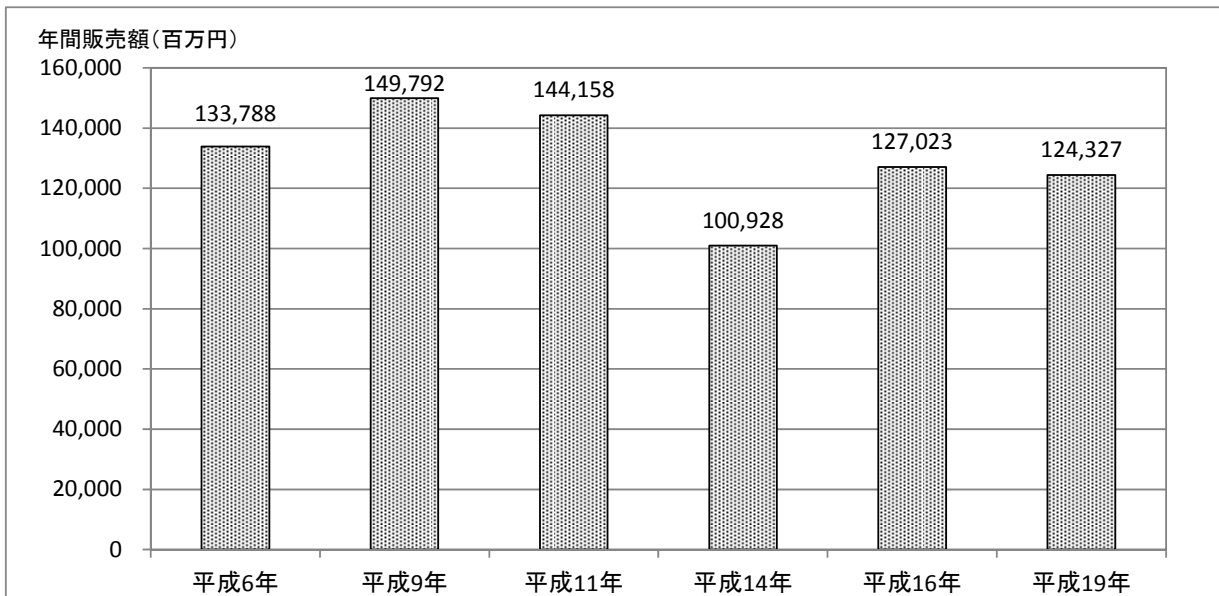
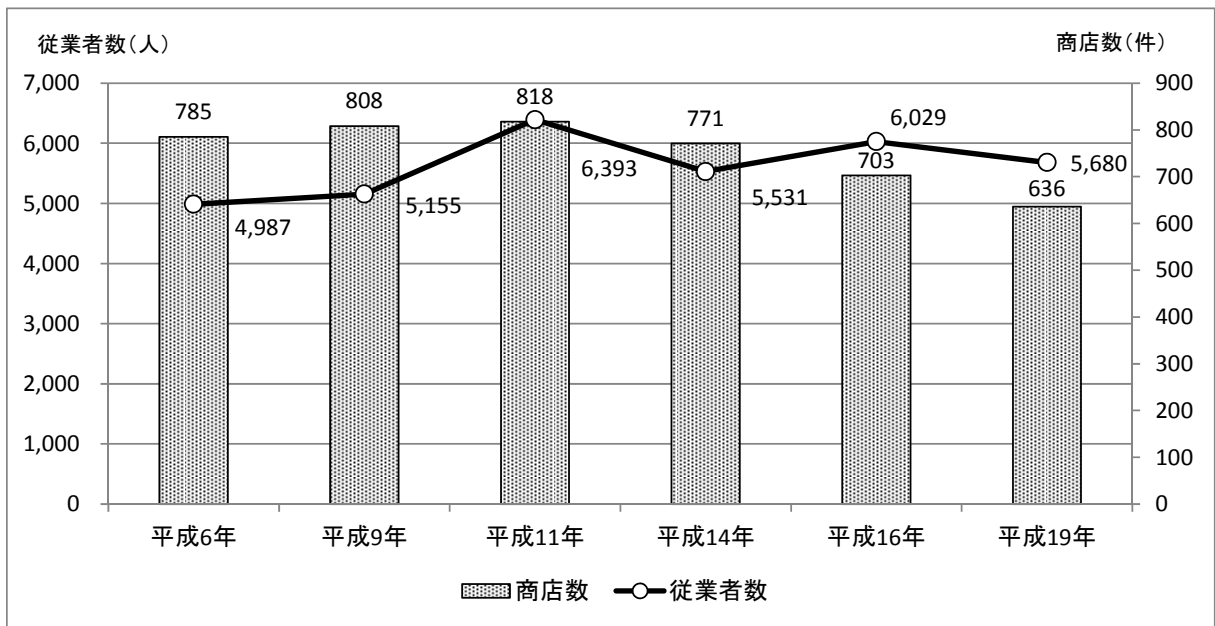


注：経済センサス-活動調査実施年のため平成23年調査は中止

資料：統計東やまと

<商業>

- 商店数は近年減少気味、従業者数は概ね横ばいとなっています。
- 年間販売額は近年増加傾向を示していますが、既存の商店街においては、業績不振や後継者不足、来客の減少等により、空き店舗の出現もみられます。
- 本市の商業地域は東大和市駅周辺と、モノレールの上北台駅周辺となっています。新青梅街道沿いには、大型店舗の進出がみられます。

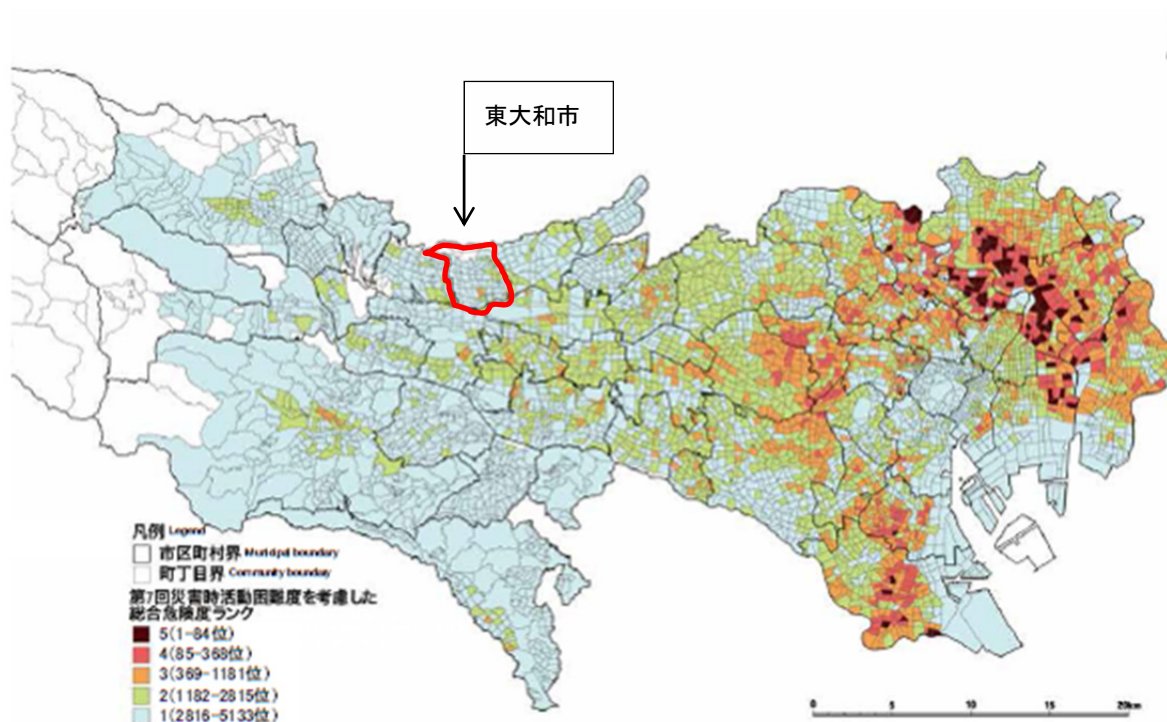
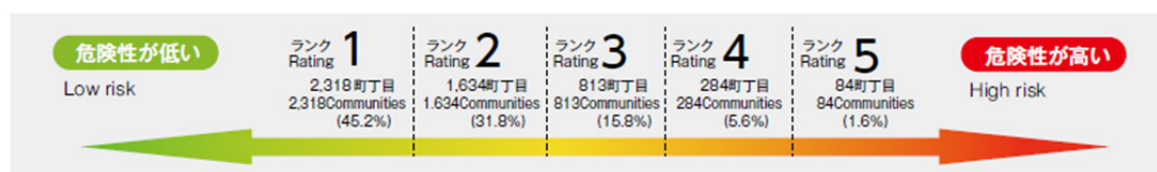


資料:統計東やまと

6) 地域危険度

- 本市は、比較的災害が少ないところですが、立川断層（青梅市～武蔵村山市～立川市～府中市）が近くをとっており、災害に対する備えは東日本大震災の教訓も含め大切になります。
- 東京都の調査である「第7回地域危険度測定調査結果」（平成25年9月）によると、市域の大半は「ランク1」という相対評価で危険度は低い地域となっています。
- 災害時活動困難度を考慮した総合危険度で「3」のランクが新堀、南街の一部、「2」のランクが湖畔・狭山・清水・高木・向原・南街・新堀の一部に出現しています。

● 危険度総合評価(災害時活動困難度*を考慮した場合)



*災害時活動困難度とは、災害時の避難や消火・救助活動のしやすさ（困難さ）を加味した場合ということで、具体的には幅員6m以上の道路まで到達するのにかかる平均的な時間と、幅員4m以上の道路から容易にアクセスできない範囲が町丁目面積に占める割合を掛け合わせ指標化している。

資料: 東京都市街地整備部防災都市づくり課(以下 同)

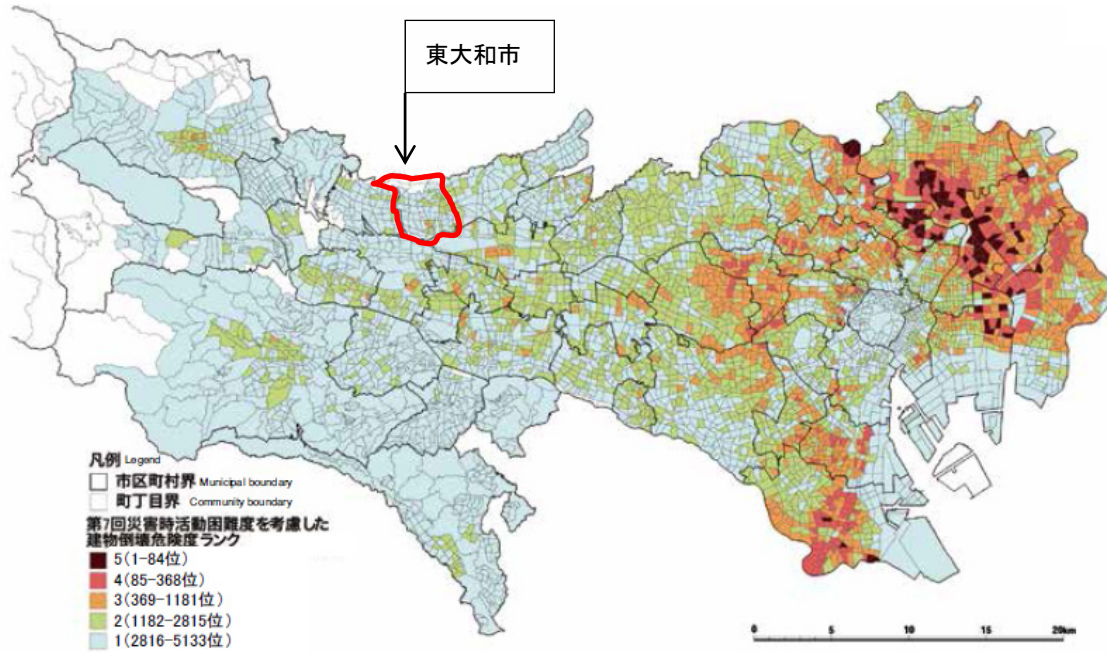
● 東大和市の調査区分と危険度一覧

町丁目名	地盤分類	建物倒壊危険度		火災危険度		総合危険度		災害時活動困難度を考慮した危険度					
		ランク	順位	ランク	順位	ランク	順位	建物倒壊危険度		火災危険度		総合危険度	
								ランク	順位	ランク	順位	ランク	順位
芋窪1丁目	丘陵	1	3976	1	4656	1	4362	1	3496	1	4590	1	4079
芋窪2丁目	丘陵	1	4202	1	4652	1	4452	1	3172	1	4438	1	3854
芋窪3丁目	台地1	1	3505	1	3748	1	3678	1	2878	1	3430	1	3180
芋窪4丁目	台地1	1	3056	1	3610	1	3396	2	2395	1	3241	1	2841
芋窪5丁目	台地1	1	4359	1	4572	1	4488	1	4131	1	4486	1	4339
芋窪6丁目	台地1	1	4185	1	4430	1	4353	1	3904	1	4318	1	4141
上北台1丁目	台地1	1	3662	1	4195	1	3977	1	4310	1	4426	1	4393
上北台2丁目	谷底低地2	1	4504	1	4358	1	4455	1	4726	1	4522	1	4646
上北台3丁目	台地1	1	4102	1	4279	1	4249	1	3534	1	4031	1	3829
清原1丁目	台地1	2	2120	1	4570	1	3409	1	3851	1	4786	1	4344
清原2丁目	台地1	1	4657	1	4585	1	4629	1	4776	1	4697	1	4758
清原3丁目	台地1	1	3922	1	5116	1	4538	1	4239	1	5116	1	4691
清原4丁目	台地1	1	4479	1	4363	1	4445	1	4779	1	4603	1	4703
湖畔1丁目	台地1	2	2629	2	1424	2	2049	2	2535	2	1354	2	1916
湖畔2丁目	台地1	2	2196	1	4022	1	3154	1	4130	1	4468	1	4331
湖畔3丁目	台地1	2	2505	2	2811	2	2688	1	3069	1	2993	1	3055
桜が丘1丁目	台地1	1	5018	1	5046	1	5056	1	5024	1	5062	1	5067
桜が丘2丁目	台地1	1	4718	1	4722	1	4731	1	4628	1	4688	1	4676
桜が丘3丁目	台地1	1	5028	1	4853	1	4959	1	5002	1	4837	1	4944
桜が丘4丁目	台地1	1	4360	1	3838	1	4145	1	3970	1	3464	1	3767
狭山1丁目	台地1	1	3641	1	4017	1	3884	1	4089	1	4188	1	4173
狭山2丁目	台地1	2	2637	1	3253	1	2981	2	1906	2	2790	2	2350
狭山3丁目	台地1	1	2921	1	4166	1	3588	2	2133	1	3900	1	3038
狭山4丁目	台地1	2	2649	1	3000	1	2852	2	1580	2	2311	2	1917
狭山5丁目	谷底低地2	1	3036	1	3500	1	3320	2	2134	1	2999	2	2582
清水1丁目	谷底低地2	2	2197	2	2815	2	2519	2	2081	2	2614	2	2348
清水2丁目	台地1	1	3474	1	3696	1	3629	1	3498	1	3653	1	3632
清水3丁目	台地1	1	3246	1	3739	1	3540	2	2440	1	3342	1	2926
清水4丁目	谷底低地2	2	2160	2	2213	2	2225	2	2154	2	2068	2	2109
清水5丁目	谷底低地2	2	2047	2	1740	2	1896	2	1755	2	1489	2	1569
清水6丁目	台地1	1	3124	1	3496	1	3368	1	3361	1	3515	1	3486
新堀1丁目	台地1	3	1143	3	678	3	802	3	930	3	702	3	772
新堀2丁目	台地1	2	1675	2	1257	2	1446	2	1503	3	1178	2	1274
新堀3丁目	台地1	1	3532	1	3690	1	3656	1	4640	1	4374	1	4545
蔵敷1丁目	丘陵	1	4124	1	4706	1	4440	1	3241	1	4565	1	3933
蔵敷2丁目	台地1	1	3387	1	3581	1	3532	1	2968	1	3331	1	3173
蔵敷3丁目	台地1	1	4669	1	4274	1	4496	1	4685	1	4238	1	4488
高木1丁目	台地1	1	3871	1	4295	1	4126	1	3338	1	4102	1	3769
高木2丁目	台地1	2	2806	1	3874	1	3404	2	2030	1	3535	2	2811
高木3丁目	台地1	1	3247	1	3923	1	3628	1	2909	1	3743	1	3373
立野1丁目	台地1	1	4193	1	4245	1	4281	1	4635	1	4493	1	4605
立野2丁目	台地1	1	4685	1	4719	1	4710	1	4720	1	4756	1	4760
立野3丁目	台地1	1	4342	1	4422	1	4408	1	4259	1	4394	1	4356
立野4丁目	台地1	1	4719	1	4843	1	4796	1	4588	1	4823	1	4724
多摩湖4丁目	台地1	1	5109	1	5032	1	5091	1	5105	1	4999	1	5077
中央1丁目	台地1	1	3321	2	2670	1	3040	1	4076	1	3172	1	3686
中央2丁目	台地1	1	3548	1	3048	1	3359	1	3381	1	2895	1	3163
中央3丁目	台地1	1	4662	1	4760	1	4725	1	4669	1	4782	1	4742
中央4丁目	台地1	1	2878	1	3467	1	3218	1	3052	1	3451	1	3294
仲原1丁目	台地1	1	3969	1	4199	1	4129	1	4352	1	4379	1	4392
仲原2丁目	台地1	1	4027	1	3840	1	3985	1	4486	1	4165	1	4354
仲原3丁目	台地1	1	4117	1	3965	1	4090	1	4805	1	4523	1	4682
仲原4丁目	台地1	1	4038	1	4171	1	4150	1	4800	1	4658	1	4749
奈良橋1丁目	丘陵	1	4007	1	4284	1	4199	1	3309	1	4006	1	3718
奈良橋2丁目	谷底低地2	1	3323	1	4016	1	3717	2	2778	1	3797	1	3326
奈良橋3丁目	台地1	1	3104	1	3637	1	3434	2	2619	1	3351	1	3009
奈良橋4丁目	台地1	1	4122	1	4371	1	4304	1	3792	1	4249	1	4056
奈良橋5丁目	台地1	1	3853	1	4319	1	4131	1	3565	1	4211	1	3919
奈良橋6丁目	台地1	1	3816	1	3891	1	3924	1	3522	1	3712	1	3679
南街1丁目	谷底低地2	2	1772	3	1049	2	1386	2	1809	3	1112	2	1390
南街2丁目	谷底低地2	3	1149	3	835	3	912	3	943	3	826	3	838
南街3丁目	台地1	2	1997	2	1968	2	1995	1	3176	2	2456	1	2838
南街4丁目	谷底低地2	2	2533	1	3420	1	3017	1	3760	1	3852	1	3857
南街5丁目	台地1	2	1666	3	1111	2	1363	2	1513	3	1084	2	1233
南街6丁目	台地1	2	1307	3	1135	3	1168	2	1713	2	1385	2	1490
向原1丁目	台地1	1	4149	1	4062	1	4154	1	4379	1	4192	1	4314
向原2丁目	台地1	2	1441	1	2829	2	2173	2	2571	1	3308	1	2968
向原3丁目	台地1	1	3508	1	3173	1	3407	1	4067	1	3510	1	3837
向原4丁目	台地1	1	3651	1	3776	1	3771	1	4727	1	4456	1	4625
向原5丁目	台地1	2	1686	2	1997	2	1846	2	1761	2	1911	2	1794
向原6丁目	台地1	2	2512	1	3224	1	2894	1	2967	1	3330	1	3172

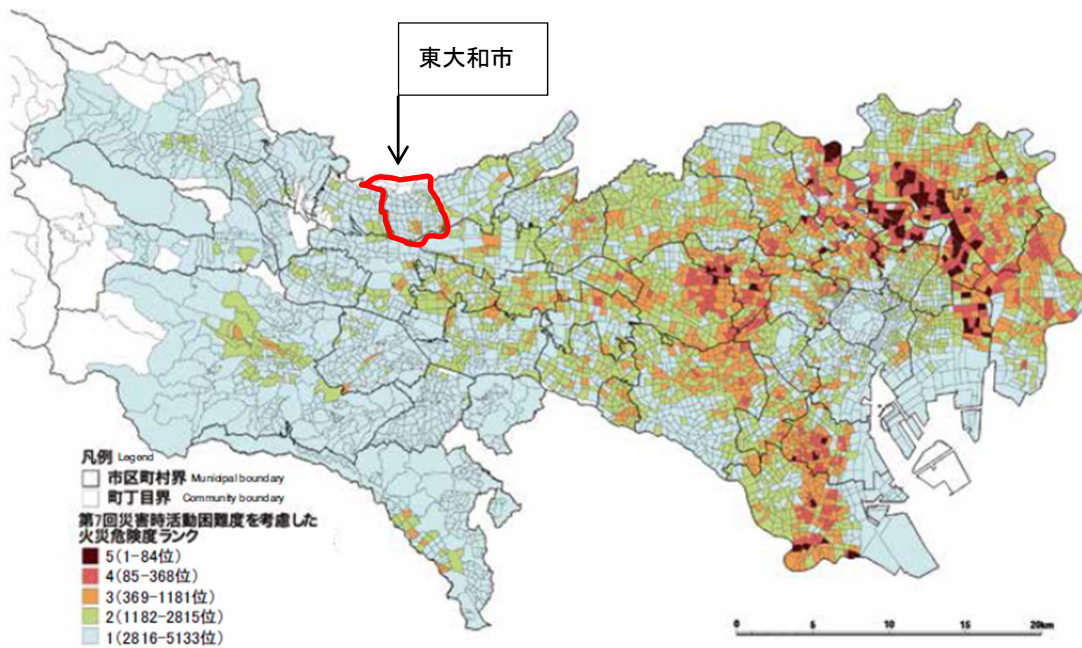
注

災害時活動要因を考慮した危険度の「2」以上の町丁目

● 建物倒壊危険度ランク(災害時活動困難度*を考慮した場合)



● 火災危険度ランク(災害時活動困難度*を考慮した場合)



2 市民の声

1) アンケート調査の方法

都市マスタープラン改定にあたって、今後のまちづくりに関するアンケート調査を実施しました。

アンケート調査の配布・回収状況は以下のとおりです。

項目		内容
配布対象者		20歳以上の市民
抽出方法		無作為抽出
実施時期		平成25年8月～9月
配布・回収 状況	配布数	2,000票
	総回収数	844票
	回収率	42.2%
	内、有効票	839票

調査の項目は以下のとおりです。

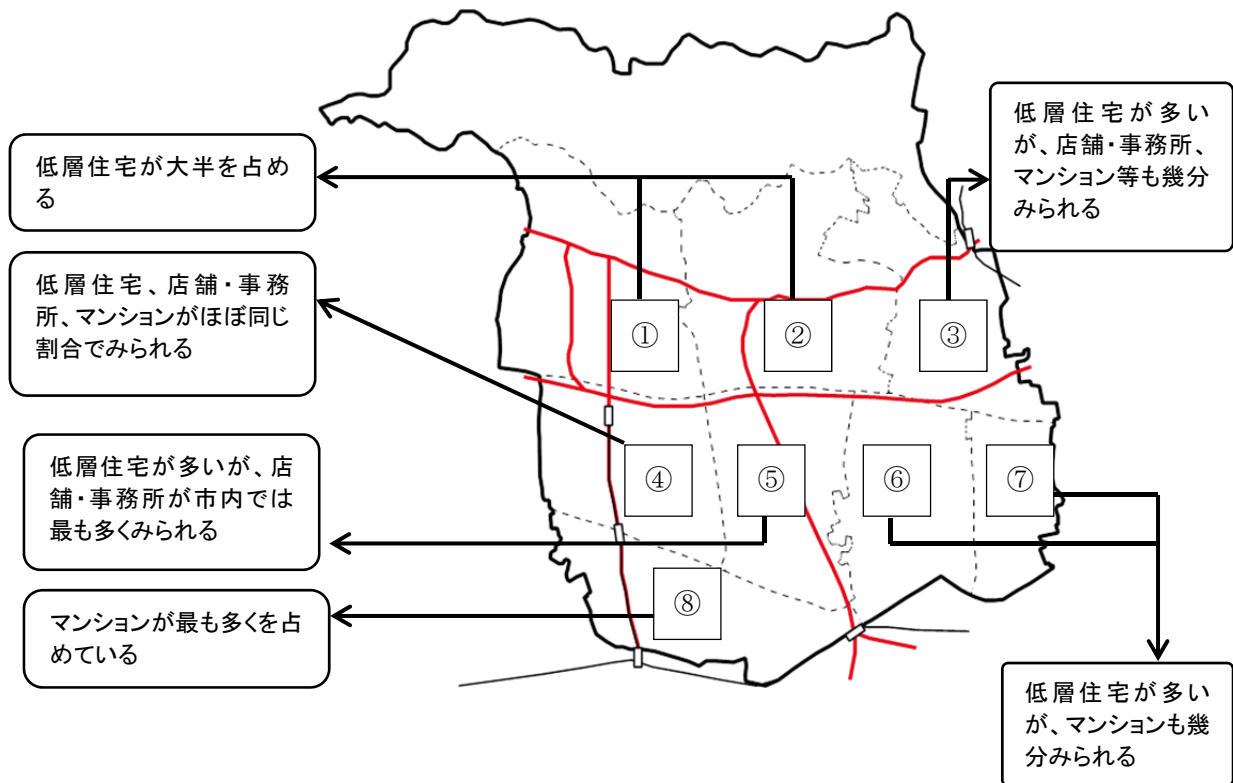
回答者の属性	
問1	性別、年齢、職業、居住地域、居住年数、目的別交通手段、市内の素晴らしい場所や施設、「東大和市都市マスタープラン」の認知度
住んでいる地域についての評価	
問2	地域の特性、満足度、不満点
問3	地域の魅力
問4	定住意向
問5	地域の環境や日常生活の「満足度」と「重要度」
これからのまちづくりへの取組みについて	
問6	居住地域の理想の将来像
問7	住まいの地域を良くするための重要な取組み
問8	市の景観について
問9	地震や火災に対する安全なまちづくりについて
まちづくりへの参加について	
問10	「東大和市のまちづくり」をどのように進めるべきか
問11	市民参加のあり方について
自由意見	

2) 主な結果概況

●住まいの地域に対する認識 ⇒ 基本は静かな低層住宅地

- ・基本は「静かな低層の住宅地」という認識であるが、桜が丘地域では「マンションが中心の地域である」という認識が強く出ている。

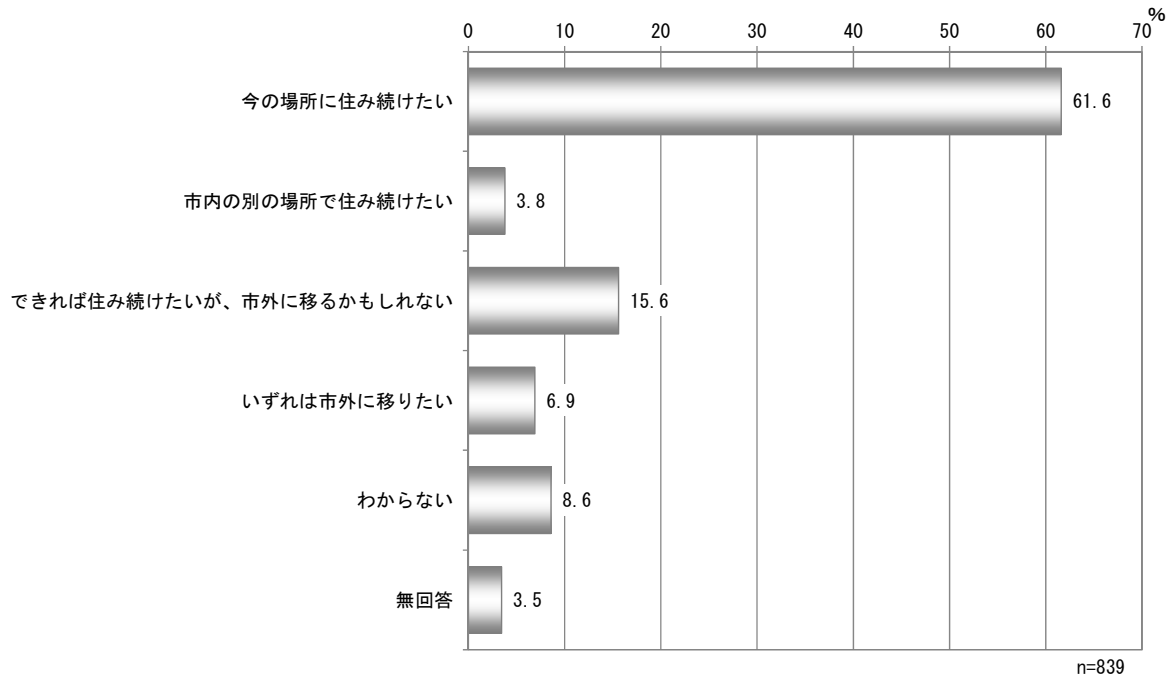
- | | | | |
|--------|------------|--------|---------|
| ①芋窪・蔵敷 | ②奈良橋・湖畔・高木 | ③狭山・清水 | ④上北台・立野 |
| ⑤中央・南街 | ⑥仲原・向原 | ⑦清原・新堀 | ⑧桜が丘 |



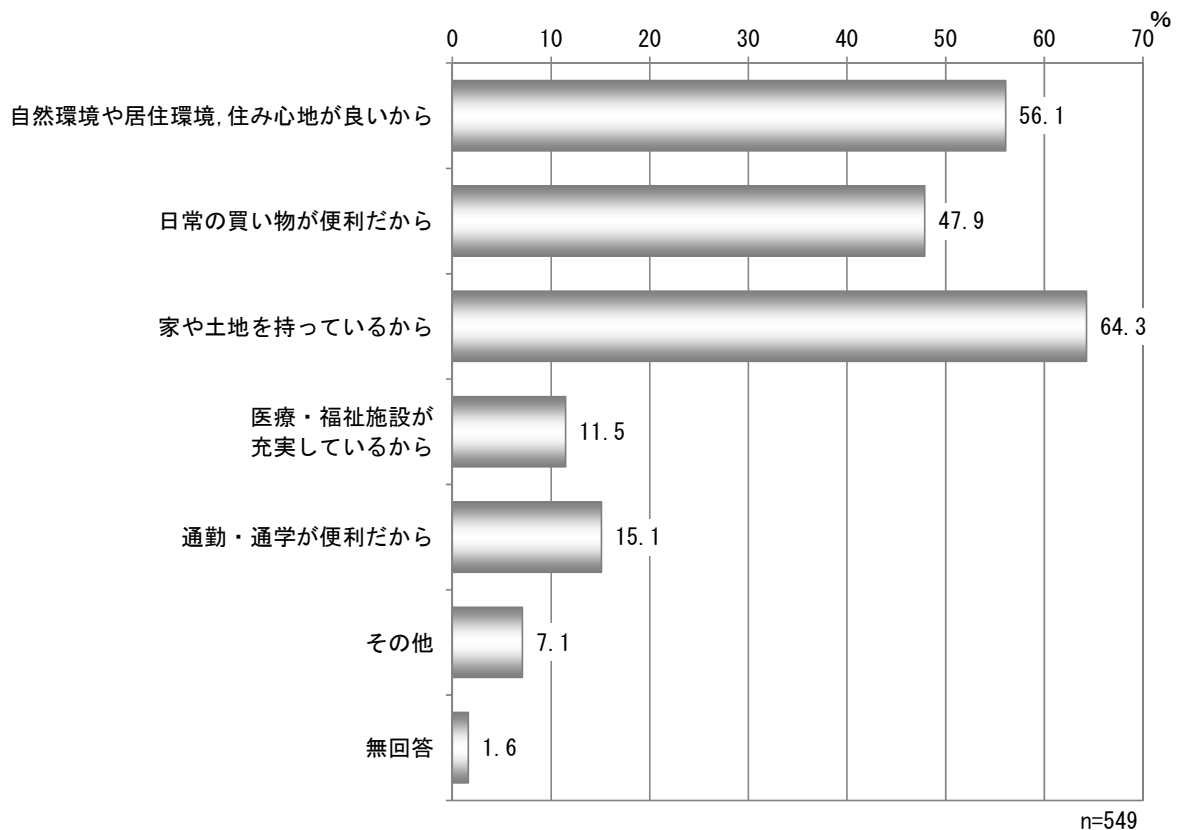
●定住意向 ⇒ 定住派が多く、理由は自然環境・居住環境・利便性

- ・定住派：転出派＝3：1で、定住派の方がかなり多く、全市共通的な傾向である。
- ・定住理由は「自然環境や居住環境の良さ」や「日常の買い物が便利だから」が主な理由となっている。

【定住意向】



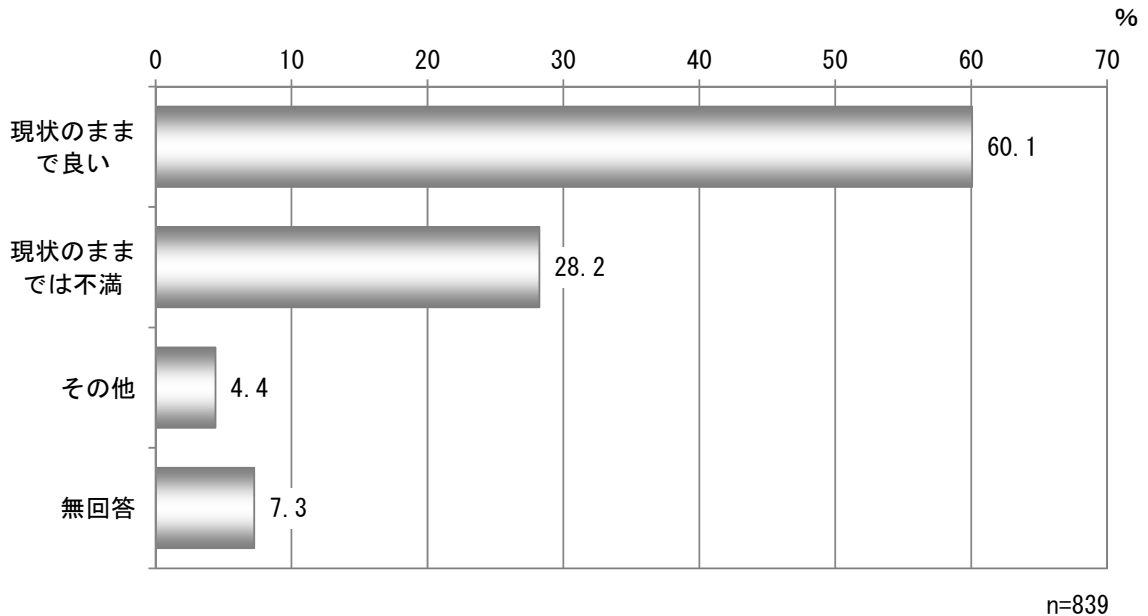
【定住理由】（複数回答）



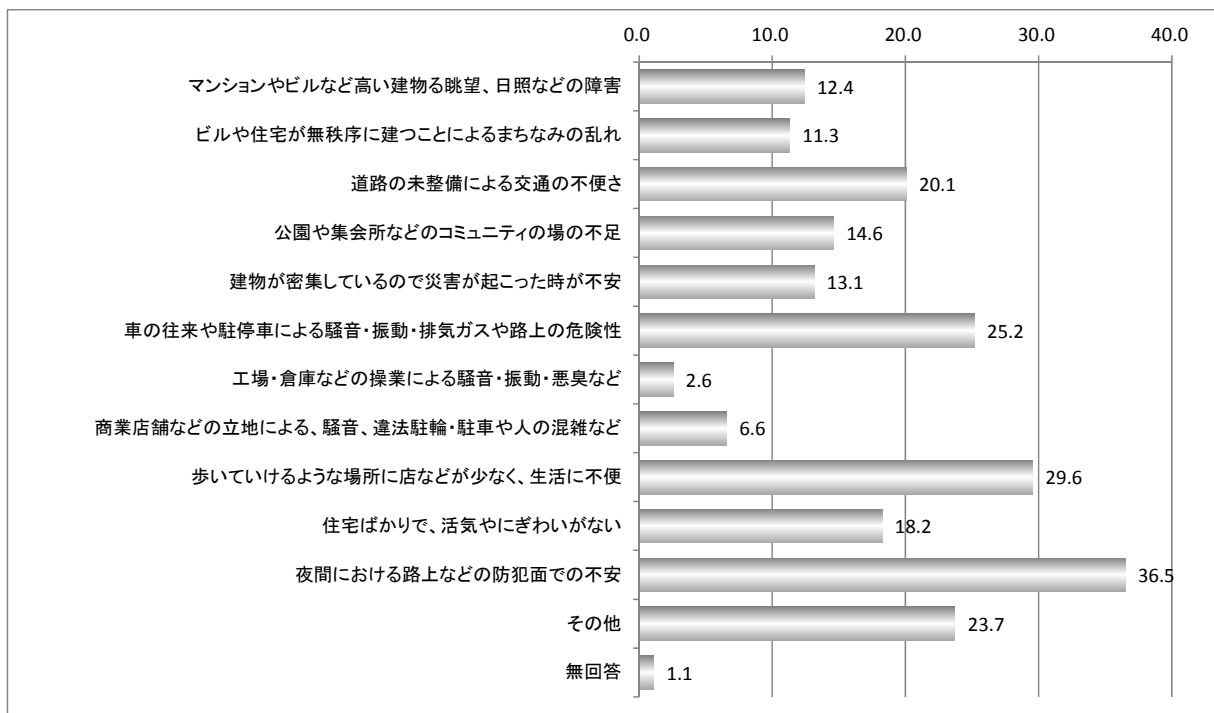
●住まいの地域での不満⇒ 夜間の防犯と車による騒音や危険性

・満足派：不満派＝2：1と不満派が少ないが、不満の理由は「夜間の防犯面での不安」、「歩いて行けるところに店が少なく不便」及び「車の往来による騒音や危険性」となっている。

【住まいの地域に対する満足度】



【不満の理由】（複数回答）



●日常生活における移動手段 ⇒ 自転車と徒歩の多さが特徴的

- ・「自家用車」が全ての目的で最も多い交通手段となっているが、「自転車」、「徒歩」も多く、特に高齢者や女性にその割合が高くなっている。

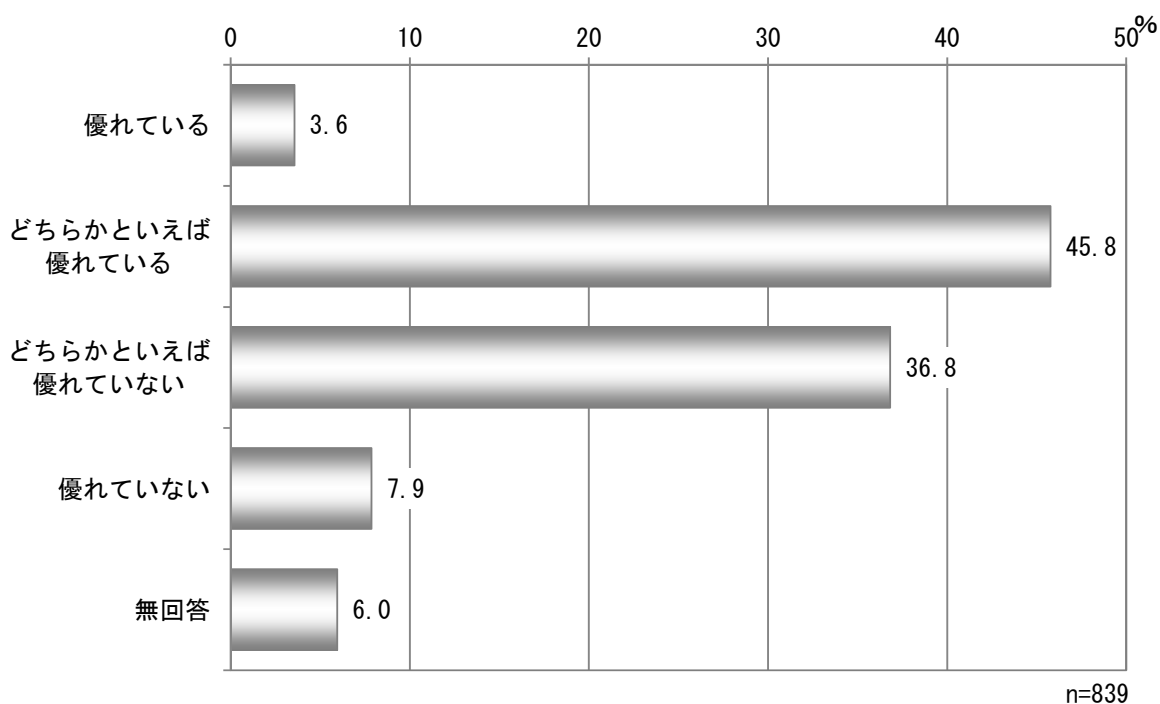
	1位	2位	3位	上位3つの合計
通勤・通学	自家用車 (16.6)	自転車 (13.3)	鉄道 (+徒歩) (12.6)	42.5
日常の買い物	自家用車 (39.5)	自転車 (33.0)	徒歩 (17.2)	89.7
休日のショッピング	自家用車 (58.0)	自転車 (8.0)	鉄道 (+徒歩) (6.8)	72.8
映画・音楽鑑賞等の娯楽	自家用車 (38.9)	鉄道 (+徒歩) (16.1)	路線バス (9.2)	64.2
家族での外出	自家用車 (68.8)	徒歩 (6.3)	自転車 (3.9)	79.0
スポーツ等の活動	自家用車 (31.6)	自転車 (22.6)	徒歩 (9.5)	63.7
病院などへの通院	自家用車 (40.2)	自転車 (23.6)	徒歩 (9.2)	73.0
市役所訪問	自家用車 (41.7)	自転車 (35.5)	徒歩 (8.1)	85.3

●市民が誇れるもの ⇒ 多摩湖・狭山丘陵と東大和南公園

- ・北の多摩湖・狭山丘陵と南の東大和南公園が代表的なものとしてあげられている。

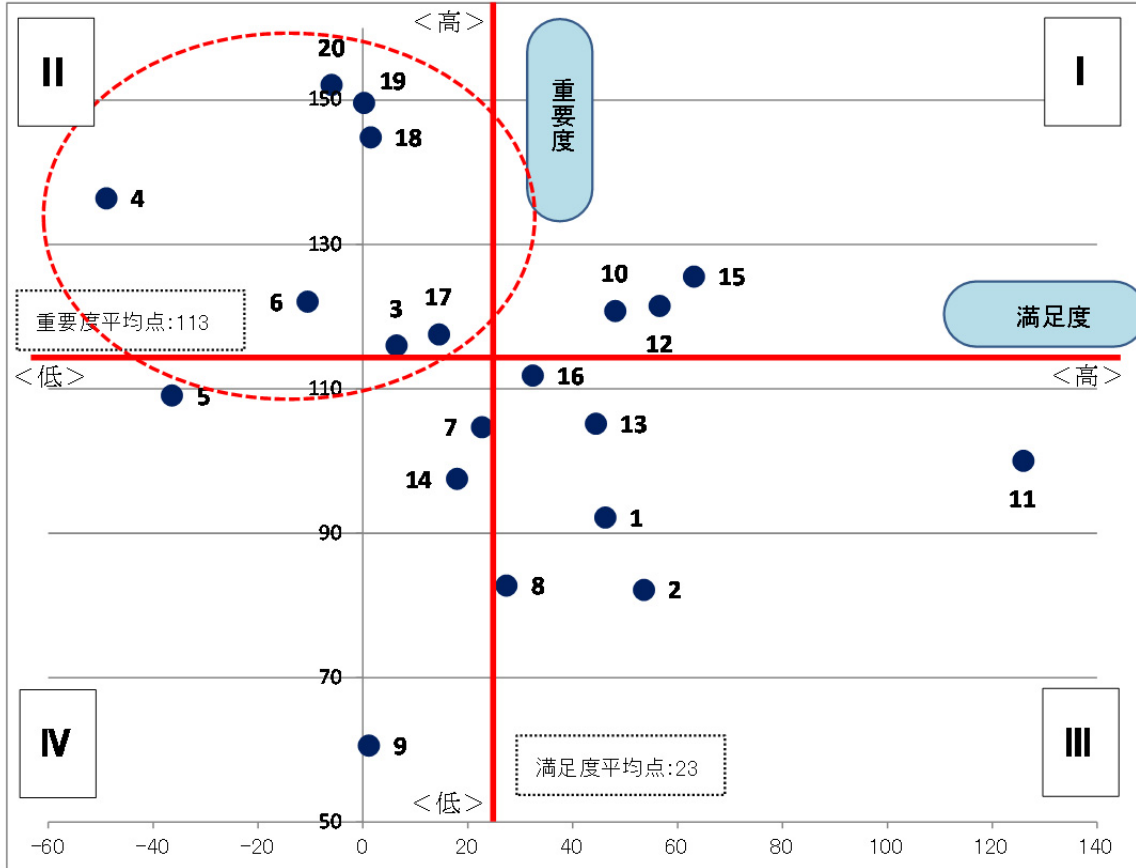
●市の景観への評価 ⇒ 良と不良が半々で、評価はあまり高くない

- ・景観については、良か不良かに分けると半々であるが、「優れている」という評価はわずか4%以下となっている。



●市民生活において、重要度が高いが、満足度が低いもの ⇒ 安全・安心面

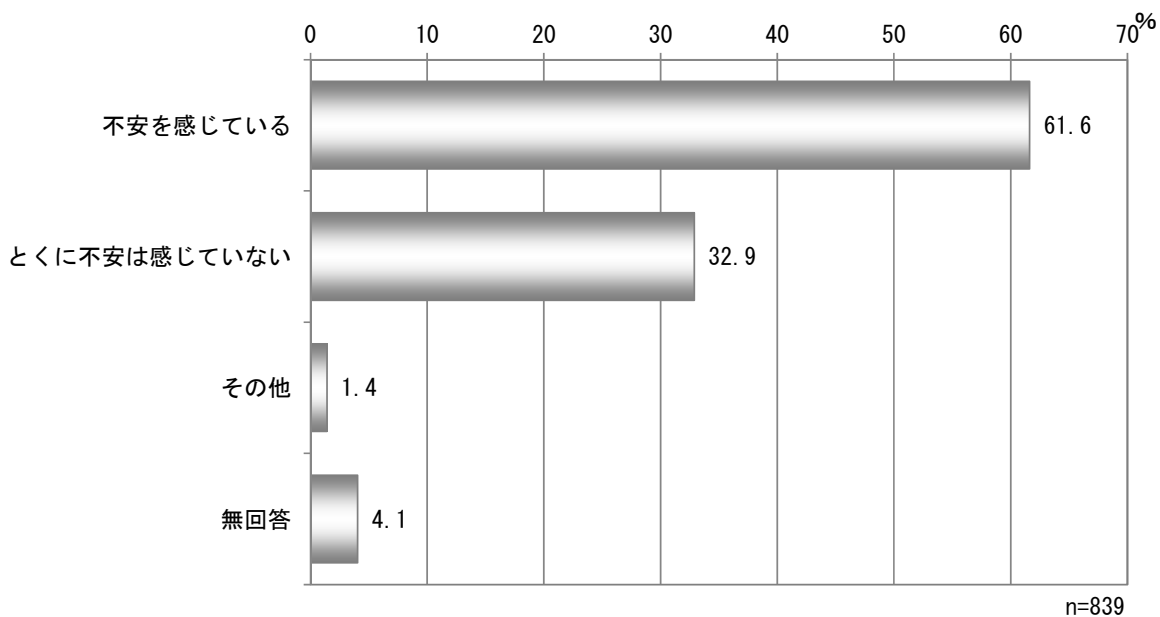
- ① 犯罪に対する防犯への取組み
- ② 火災・地震・水害など災害に対する安全性
- ③ 医療・介護・福祉関連施設の整備・利用のしやすさ
- ④ 歩道の広さ、歩行者・自転車の安全性
- ⑤ 危険な交差点の改良などの交通安全対策



① 身近な生活道路の整備
② 幹線道路の整備
③ 鉄道やバス（コミュニティバス含む）などの公共交通機関の利用のしやすさ
④ 歩道の広さ、歩行者・自転車の安全性
⑤ 駅周辺の駐輪場・駐車場の整備
⑥ 危険な交差点の改良などの交通安全対策
⑦ 公共施設のバリアフリー化
⑧ 公園や広場の整備・利用のしやすさ
⑨ レクリエーション施設の整備・利用のしやすさ
⑩ ごみ収集処理やリサイクルへの取り組み
⑪ 狭山丘陵や遠方の山並みなどの美しい風景
⑫ 河川や水路などの水・空気のきれいさ
⑬ 自然に親しみ憩える場の整備
⑭ まちなみの美しさ、良好な景観
⑮ 住環境の快適性（日照・通風・静けさ）
⑯ 商店街の充実、日常の買い物の利便性
⑰ 教育環境（子育て環境等を含む）の整備
⑱ 医療・介護・福祉関連施設の整備・利用のしやすさ
⑲ 火災・地震・水害など災害に対する安全性
⑳ 犯罪に対する防犯への取り組み

●自然災害に対する不安 ⇒ 不安有が不安なしの2倍

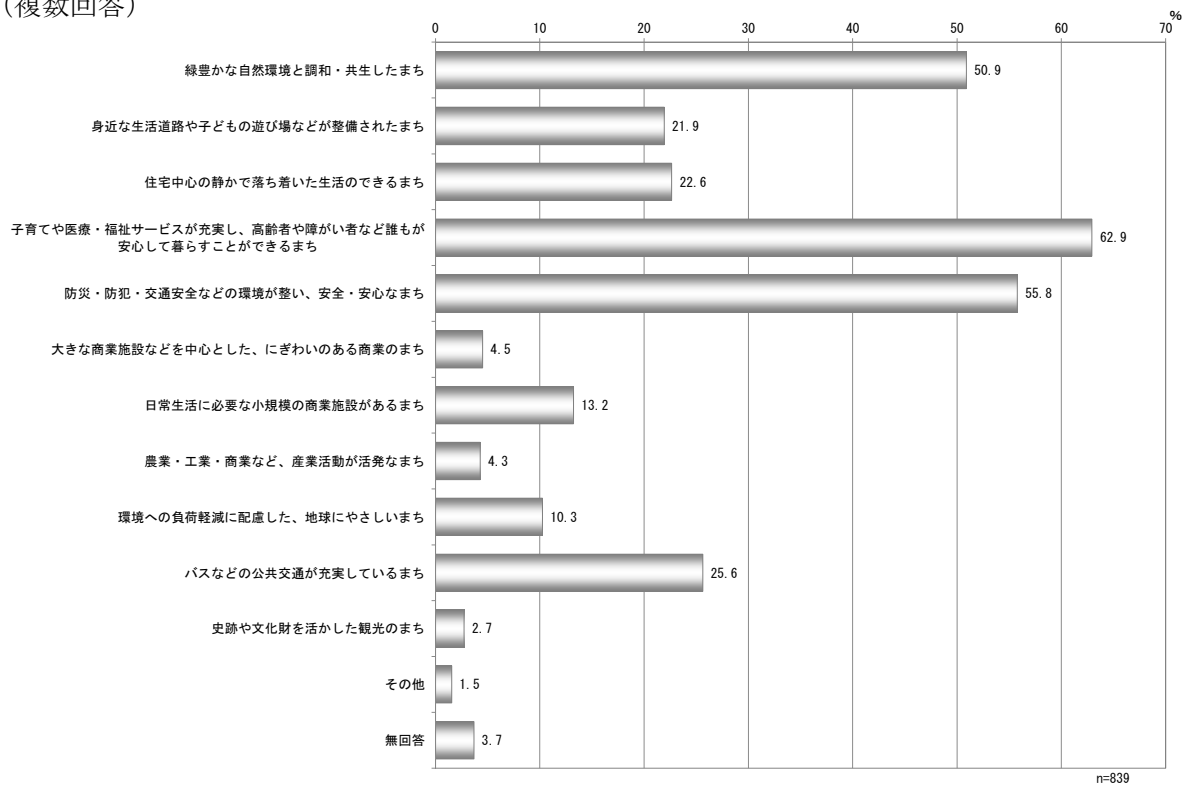
・「不安を感じている」が 61.6%、「とくに不安は感じていない」が 32.9%で、不安を感じている人が概ね2倍となっている。



●理想の将来像 ⇒ 自然環境と共生した安全・安心なまち

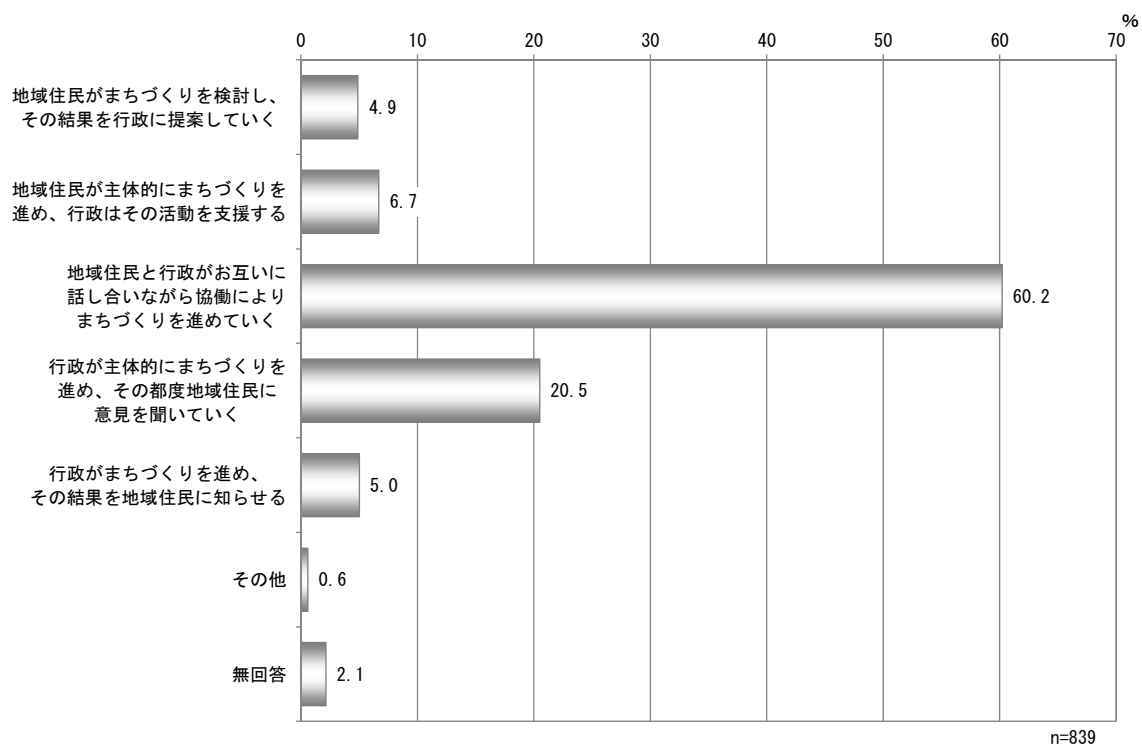
- ① 福祉が充実していて安心して暮らせるまち
- ② 防災・防犯等に対して安全・安心なまち
- ③ 自然環境と調和・共生したまち

(複数回答)



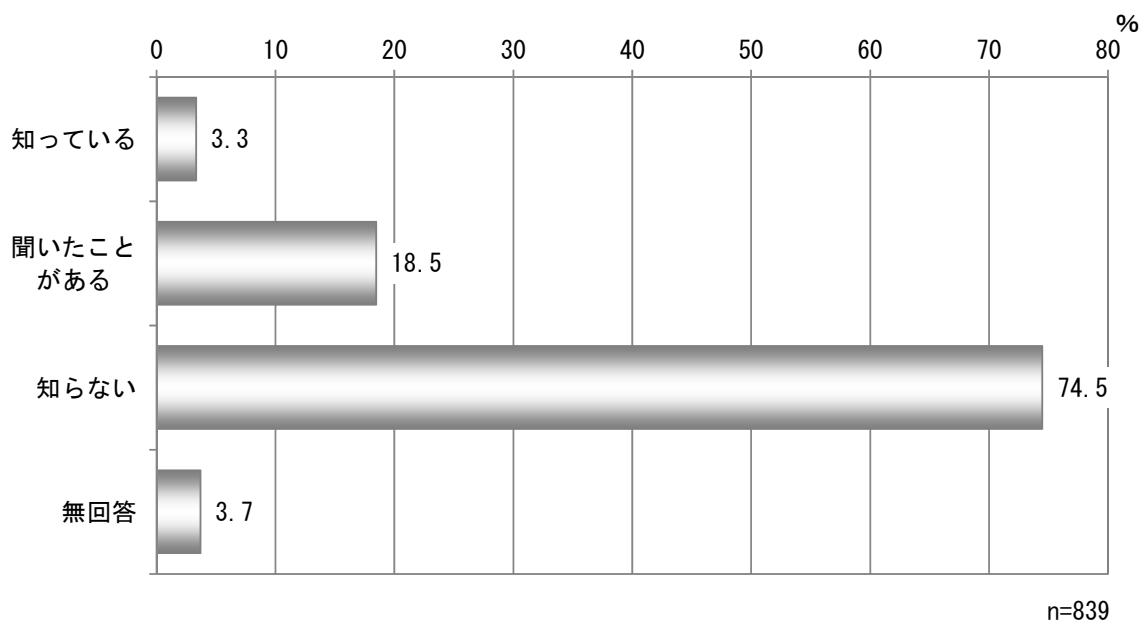
●まちづくりへの参加 ⇒ 協働志向が非常に高い

- ・「地域住民と行政がお互いに話し合いながら協働によりまちづくりを進めていく」が6割以上。但し行政依存型も2割程度有り。



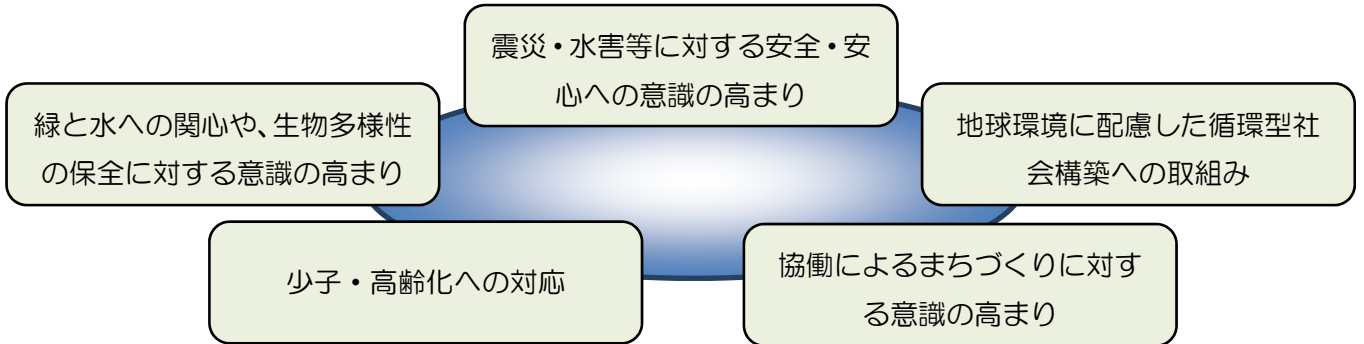
●都市マスタープランの認知度 ⇒ 認知度は非常に低い

- ・「知らない」が7割以上占め、特に若い世代での認知度が低い。



3 時代の潮流変化

都市環境を取り巻く時代の潮流のキーワードとして、次の5点から考察します。



震災・水害等に対する安全・安心への意識の高まり

大規模な地震や局地的な集中豪雨などへの不安が高まっており、市民の生命や財産を守る取組みが重要視されています。中でも平成23年3月の東日本大震災は原発事故をも伴い、国民の安全・安心に対する考え方を大きく変えました。

今回実施した市民アンケート調査結果でも、自然災害に対する不安の声は大きく、立川断層に近接する本市においては、地震に対する防災・減災への取組みが重要となっています。

また、社会環境の変化に伴い、日常生活における様々な危険性も複雑化しており、安全・安心の確保には、社会基盤の整備とともに、一人ひとりの日頃からの備えや地域での助け合い、情報の共有化を進めることが重要となっています。

地球環境に配慮した循環型社会構築への取組み

資源やエネルギーを大量に消費し、廃棄物を大量に排出する時代から、資源・エネルギーを大切に使い、環境負荷の少ない社会を目指す動きへと変わっています。特に東日本大震災に伴う原発事故を機に、エネルギー需給のあり方を見直し、太陽光、風波力、バイオ、水力、地熱といった自然エネルギーを取り入れるチャレンジが加速しており、企業、地域、家庭での取組みへの期待がますます高まっていくと予想されます。

また、3Rといわれるごみのリデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）など環境負荷の少ないライフスタイルや企業努力が一層求められ、公共交通の利用促進や環境負荷の少ない物流体系の構築など、生産者、消費者、地域など、様々な立場から新たな工夫や提案を出し合うことが期待されます。

本市においてもごみ問題への取組みや、チップの再利用等に取り組んでいますが、今後とも、市民ぐるみでのさらなる取組みが求められるところです。

緑と水への関心や、生物多様性の保全に対する意識の高まり

市民生活において、緑や水の環境はうるおいを与え、精神的なゆとりをもたらすとともに、都市の風合いをもたらす要素としても重要なものとなっています。また、これらの自然環境に生息する多様な生物と共生する社会づくりも求められています。

本市は、多摩湖や狭山丘陵という優良な自然環境を有するとともに、江戸時代に開削された野火止用水は文化的資源でもあり市民の財産となっています。

これら自然環境は周辺都市と比較しても本市を特色づける資源であり、自然環境の保全とともに、市民のオアシスとしての適正な有効利用も求められるところです。

少子・高齢化への対応

平成 22 年 10 月 1 日の国勢調査では、我が国の総人口は、約 1 億 2,806 万人ですが、少子高齢化の進行とともに人口減少期へと移行しており、人口問題研究所は、平成 42 年には 1 億 1,602 万人、平成 72 年には 8,674 万人と現在の 6 割台までに縮小すると推計しています。高齢者の人口比率は、平成 22 年には 23.1%と世界最高水準になっており、今後も上昇して、平成 42 年には 31.6%、平成 72 年には 39.9%へと拡大していくことが予測されています。

本市の人口は依然増加傾向を示していますが、高齢化率は 21.8%（平成 22 年国調）で東京都平均の 20.1%を上回っています。また、人口問題研究所の予測では、平成 37 年には人口減に転じるという予測もみられます。超高齢・少子社会に対応した街づくりには、移動や居住の安定確保といったことへの取組みとともに、そこに住む人々の幸せ感を高めていくことが重要であり、女性力の活用や元気高齢者の社会参加を促すとともに、若い世代が住みたくなるまちづくりを進めることが求められます。

協働によるまちづくりに対する意識の高まり

人口減少、少子高齢化と相まって、国や自治体の財政をめぐる環境は依然厳しい状況にあり、一方では医療・福祉ニーズの拡大、循環型社会づくりへの要請や防災体制の充実など、行政に対するニーズや期待は、ますます高まっています。

地方分権に伴う権限移譲など、地域の自主性・自立性を高めるための改革が進められる中で、住民満足度の高い、持続可能なまちづくりが一層求められており、自治体の政策形成能力が問われています。

そして、地域の課題を解決し、より快適で豊かな生活を実現していくためには、行政だけではなく市民や企業等も、それぞれの力を出し合っていく必要があります。

今後、自治会や企業・NPO団体と市との協働によるまちづくりがますます求められます。

4 現行計画の進捗状況からみた課題

平成 11 年度に策定した現行の「東大和市都市マスタープラン」は、都市の構造と 5 つの分野別都市づくり方針を掲げ各種施策を誘導してきました。これらの方針と実施してきた施策に対する検証を元に、改定に向けた考え方や課題を以下のとおり整理します。

都市の構造	拠点や軸と土地利用
分野別方針	① 交通と都市づくり
	② 緑と水の都市づくり
	③ 住宅と都市づくり
	④ やさしく美しい都市づくり
	⑤ 安全で安心な都市づくり

項目	プランの改定へ向けた考え方や主要課題
都市の構造	<p><拠点や軸について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○多摩湖及びそれを含む狭山丘陵は、貴重な自然環境資源であるとともに、象徴的な観光資源であり、保全と積極的な活用が期待されている。 ○桜街道駅周辺の土地利用が著しく変化しているため、新たに中心機能を担うよう誘導していく。他の生活圏の中心となる『生活心』や『都市軸』については大きな都市の骨格構造を変える要因もないので、桜街道駅周辺以外については現行プランを継承するものとする。 <p><土地利用について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地区計画の決定により土地利用の方針に沿った整備を誘導し、成果を挙げているので、さらなる活用を図っていく。 ○商業等の活性化を進めていくためには、具体的な制度・整備手法、支援を検討していく必要がある。 ○工業地域に 3 市共同資源物処理施設の建設計画が有り、住・工が共存できる方策を検討する必要がある。 ○自然災害等を考えると、新堀・南街地区は道路が狭く、地区計画等の検討が必要となる。 ○農地の持つ様々な機能を活用するため、生産緑地地区の保全と追加指定を行っていく必要がある。 ○桜街道駅周辺地域は生活心として工業・業務・住宅複合市街地を良好なバランスに保てるよう育成・誘導を図る必要がある。 ○東京街道団地は中・高密度住宅地として環境を整えるとともに、超高齢社会に対応した土地利用の誘導を図る必要がある。 ○超高齢社会を迎えるに当たり、福祉インフラの整備が一層の課題となってくる。立地に適した用地規模や用途地域指定に計画的な整合を取ることは困難であるため、福祉行政と都市計画行政の連携が必要となる。

<p>① 交通と都市づくり</p>	<p><道路整備について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○道路の性格付けについては、現行計画の踏襲が基本となる。 ○村山上貯水池堤体強化工事にあわせて、幹線道路ネットワークの強化及び防災機能の強化を図るため立3・3・30号立川東大和線の整備及び管理用通路の高規格化を要請していく必要がある。 ○生活道路の整備は「地域道路計画」に基づき進める必要がある。 ○東大和市駅前交差点での円滑な交通処理や立3・4・17号桜街道線の整備に関する検討を行う必要がある。 <p><歩行空間の整備や駐輪場・駐車場整備について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○重要な交通手段である自転車・歩行者の安全対策を推進する必要がある。 ○既存の都市計画道路で歩道が狭いところでは、道路断面構成の変更等で歩道や自転車のためのスペースを確保することが必要である。 ○駅周辺の駐輪場対策が課題となっている。 <p><公共交通サービスについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ○市の魅力として「交通の便が良い」という評価が比較的高いのは一つの強みでもあり、この強みを強化するためにも公共交通サービスのさらなる利便性の向上が課題となる。 ○多摩都市モノレールは、平成12年の運輸政策審議会答申で上北台駅以西の延伸は2015年までに整備着手することが適当である路線に位置づけられているので、早期事業化を東京都に要請していく必要がある。
<p>② 緑と水の都市づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○緑地整備については一定の整備が進んでおり、市民の評価も比較的高い。 ○公園整備については、都営住宅や土地区画整理事業、開発行為等により整備が進んでいるものの、都市計画決定されている公園の整備が進んでおらず、今後どのように整備するかが課題である。 ○都市計画緑地については公有地化等で一定の担保がされているが、引き続き公有地化を進めていくことが必要である。 ○公園や緑地の維持管理には自治会等住民との協働が必要となる。 ○多摩湖周辺は市の貴重な観光資源としての活用を図る必要がある。
<p>③ 住宅と都市づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な住宅地としての評価も反映し、人口増加は依然続いている。 ○東大和市駅周辺は、都市計画道路の整備とあわせて良好な住宅地整備が課題となる。 ○武蔵大和駅周辺は後背地の緑地や周辺の状況を考えると高度利用の検討は難しい。後背地の緑地を取り入れた新たなまちづくりの検討が必要である。 ○住宅が密集している地域は、防災上の観点からも居住環境の改善を誘導する必要がある。 ○市営住宅の運営及び用地活用については、既存の民間賃貸住宅の活用や市が所有する他の公共施設を含めた総合的な検討を行う必要がある。 ○既存住宅ストックの有効活用が課題である。

<p>④ やさしく美しい都市づくり</p>	<p>○景観については、「都市景観構想」が平成5年に策定されているので、その方針に基づく具体的な方向性を示し、引き続き誘導を図っていく必要がある。</p> <p>○市民の現在の意識としては景観への意識はそれほど高くないが、東大和市の魅力の第1位に“自然が豊かである”ことが挙げられており、自然⇒緑⇒景観という視点は重要になる。</p> <p>○市街地部において市としての特徴が少なく、“東大和らしい景観づくり”は都市の魅力を向上させる視点からも必要となる。</p> <p>○景観資源は観光資源ともなるため、発掘、保全、活用に向けた取組みが必要である。</p>
<p>⑤ 安全で安心な都市づくり</p>	<p>○市民の関心も極めて高く、安全・安心のキーワードは今後の都市づくりの大きな柱の一つとなる。</p> <p>○避難路の確保、オープンスペースの確保、市街地の安全性等、まちづくりの方向性を示していく必要がある。</p> <p>○地域危険度測定調査結果によると危険度が少し高い地域もあり、対応策の検討が必要である。</p> <p>○災害時活動困難度を考慮した危険度が高い新堀、南街地区の狭あい道路整備の検討が必要である。</p> <p>○被災後の復興について、地域で事前に検討しておく必要がある。</p>

【取組んだ事業(事項)】

- 多摩都市モノレール全線開通（平成12年）
- 東大和緑地区域拡大（平成12年）
- コミュニティバスの運行開始（平成15年）
- 桜が丘二丁目地区地区計画策定（平成15年）
- 清水六丁目・狭山五丁目地区地区計画策定（平成16年）
- 立川東大和線沿線地区地区計画策定（平成17年）
- 立3・5・20号一部開通（平成18年）
- 敷地面積の最低限度の導入（平成18年）
- 立3・3・30号開通（平成18年）
- 高さの最高限度の導入（平成20年）
- 立3・4・26号開通（平成21年）
- コミュニティバスルート変更（平成21年）
- 東大和市街づくり条例制定（平成22年）
- 向原中央公園開設（平成22年）
- 住宅マスタープラン策定（平成25年）
- 市立狭山緑地公有地化
- 都営住宅建て替え事業

5 計画改定に向けた課題の総括

計画の改定に向けて、基本的な課題とテーマ別課題は次のように集約されます。

基本課題

- ① 市民が共有し、外に向かってもアピールできる“東大和市らしさ”をどのように創出していくか。
- ② 都市近郊住宅地としての、“にぎわい（活力と利便性）と静かさ（居住性）”とのバランスある土地利用をどのように図っていくか。
- ③ 市民の命の安全を確保するための防災・減災、更に被災後の復興にいかに取り組んでいくか。
- ④ 日常生活の快適性・安全性・利便性を高めていくための、“人”や“環境”に配慮した移動空間、移動手段の確保をどのように図っていくか。
- ⑤ “市民と行政が協働”の仕組みを、まちづくりの中にどのように組み込んでいくか。

1. 交通と都市づくり

- ・ 主要幹線道路、幹線道路の整備推進
- ・ 人の動線軸に沿った、歩道・自転車通行帯の整備推進（道路断面の変更等を含む）
- ・ 駅周辺における駐輪場のあり方の検討
- ・ 「ちょこバス」をはじめとした、市内公共交通の利便性の向上

2. 緑と水の都市づくり

- ・ 多摩湖を含む狭山丘陵の保全と、市民等のレクリエーションの場としての利用促進
- ・ 緑の担保・創出のための方策の検討（生産緑地の期間経過（平成 34 年）に対する対応など）
- ・ 市中央ゾーンにおける公園整備の推進（緑のネットワークの形成）と防災性向上の検討
- ・ 市民、企業等と協働して取り組む緑（花）化による景観づくり（アダプトプログラムの導入）

3. 住宅と都市づくり

- ・ 「生活心」と位置づけている東大和市駅や武蔵大和駅周辺の整備のあり方の検討
- ・ 住宅が密集した地区（新堀、南街等）の住宅地再整備の取組み（地区計画等）
- ・ 市営住宅を含む公的住宅のあり方及び民間住宅活用の検討
- ・ 超高齢社会における住生活の向上

4. やさしく美しい都市づくり

- ・ バリアフリー化の推進
- ・ 「都市景観構想」に基づく景観形成の方針策定及び観光資源の保全
- ・ ごみ減量化とリサイクルへの取組みの推進
- ・ 低炭素型社会の構築に向けた取組み

5. 安全で安心な都市づくり

- ・ 「地域防災計画」を踏まえた安全・安心のための市街地整備
- ・ 被災後の都市復興を速やかに進めるための取組み
- ・ 防犯性向上のための、施設整備や地域における見守り体制の強化
- ・ 住宅が密集した地区での防災性向上のための道路整備の推進

